

津市一志学校給食センター長寿命化改修工事

A- 1	建築特記仕様書-1	A- 21	改修後 2階天井伏図	E- 1	電気設備 特記仕様書 1	M- 1	機械設備 特記仕様書-1
A- 2	建築特記仕様書-2	A- 22	改修前後 展開図-1	E- 2	電気設備 特記仕様書 2	M- 2	機械設備 特記仕様書-2
A- 3	建築特記仕様書-3	A- 23	改修後 展開図-2	E- 3	電気設備 特記仕様書 3	M- 3	給水・給湯設備 平面図 改修後
A- 4	建築特記仕様書-4	A- 24	改修後 展開図-3	E- 4	改修後 盤図	M- 4	給水・給湯設備 平面図 改修前
A- 5	建築特記仕様書-5	A- 25	改修後 断面図-1	E- 5	改修前 盤図	M- 5	排水設備 平面図 改修後
A- 6	位置図 配置図 仮設計画図	A- 26	改修後 断面図-2	E- 6	改修後 電灯設備図	M- 6	排水設備 平面図 改修前
A- 7	仕上表	A- 27	改修前 平面詳細図-1	E- 7	改修前 電灯設備図	M- 7	ガス・蒸気設備 平面図 改修後
A- 8	改修前 1階平面図	A- 28	改修後 平面詳細図-1	E- 8	改修後 コンセント設備・動力設備図	M- 8	ガス・蒸気設備 平面図 改修前
A- 9	改修後 1階平面図	A- 29	改修前 平面詳細図-2	E- 9	改修前 コンセント設備・動力設備図	M- 9	空調換気設備 平面図 改修前後
A- 10	改修前 2階平面図	A- 30	改修後 平面詳細図-2	E- 10	改修後 拡声設備・火災報知設備図	M- 10	厨房機器設備 リスト
A- 11	改修後 2階平面図	A- 31	改修後 部分詳細図	E- 11	改修前 拡声設備・火災報知設備図	M- 11	厨房機器設備 平面図 改修後
A- 12	改修前 屋上階平面図	A- 32	1階建具指示図			M- 12	厨房機器設備 平面図 改修前
A- 13	改修後 屋上階平面図	A- 33	2階建具指示図				
A- 14	改修前 立面図-1	A- 34	建具表-1				
A- 15	改修後 立面図-1	A- 35	建具表-2				
A- 16	改修前 立面図-2	A- 36	建具表-3				
A- 17	改修後 立面図-2						
A- 18	改修前 1階天井伏図						
A- 19	改修後 1階天井伏図						
A- 20	改修前 2階天井伏図						

工事特記仕様書（改修）

I. 工事名称

津市一志学校給食センター長寿命化改修工事

II. 工事概要

1 工事場所

津市一志町高野 地内

2 敷地面積

3 工事内容

構名称

津市一志学校給食センター

構造

鉄骨造2階建

建築面積

延べ面積

932㎡

工事項目

III. 建築改修工事仕様

1 共通仕様

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版（以下「改修標準仕様書」という。）」による。

2 特記仕様

(1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。

(2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。

(3) 項目欄に記載の（ ）内表示番号は改標仕の該当項目等を示す。

章

項目

特記事項

1

① 適用基準等

1）公共建築工事標準仕様書（建築工事編）
国土交通大臣官房官庁営繕部監修（令和4年版）
2）公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）
国土交通大臣官房官庁営繕部監修（令和4年版）
3）建築物解体工事共通仕様書
国土交通大臣官房官庁営繕部監修（令和4年版）
4）建築工事標準詳細図
国土交通大臣官房官庁営繕部監修（令和4年版）

② 施工条件

施工方法及び検査に関する事項
※ 工事契約後、速やかに調査及び施工計画書等を作成し、現場着手までに市監督員の承諾を得ること。
※ 工事中の安全計画・消防計画等は、市監督員と十分協議し災害防止に努めること。
※ 本工事における諸官庁への届出、手続き及び書類等は、速やかに提出し工事の遂行に影響の無いよう努めること。
※ 特定作業に伴って発生する騒音は、低振動・低騒音に努め騒音規制法に基づき関係機関への届出・打合せの上、作業に着手すること。
※ 工事期間中、近隣関係者等へ危害を与えないよう注意し、かつ周道路等に資材を落させたり、ほこり等を飛散させないよう万全の注意を払うこと。
※ 場外退出時、車両足廻りの洗浄等を行い、汚損等しないようにすること。
※ 工事車両の出入りについては、安全確保に十分配慮すること。
※ 大型車両通行時には誘導員を配置し、通行人及び敷地周辺の安全に十分配慮すること。
※ 工事車両及び工事関係車両は、周辺道路に駐車しないこと。
※ 工事着手前には、現況把握のために、破損箇所等があれば、市監督員立合いのもと写真に記録しておくこと。
※ 工事期間中、工事に起因し、既存施設に破損等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに原状復旧するとともに市監督員に報告書を提出すること。
※ 設計図書に明記なくとも機能上及び構造上当然必要と認められるもの並びに、取り合いのはつり補修復旧は本工事に含む。
なお内訳書の数量は参考とし、当図面を優先する。
※ 工事作業については、施設運営に支障をきたさないよう工事の遂行に必要な施工体制を確保すること。
※ 作業後の施設の施設については、施設側と十分に協議を行うこと。
※ 外部鉄部塗装替えにおいて、下地調整ケレン時に集じん機付きディスクグラインダーの使用又は湿潤化し飛散養生するなど粉塵の飛散防止に努めること。
※ 工事用水、電力については施設内既存の施設を無償で利用できる。但し、施設運営に影響しないよう事前に打ち合わせの上計画し、施工すること。
※ 令和6年7月1日から令和6年9月13日は給食調理は行わないが、その他施設運営は継続しながらの工事となるため、施設管理者、市監督員と協議の上、工程調整を行い、工事を実施すること。
※ 原則として、外壁改修、1階内部改修、ブラットホーム部改修等の給食調理、配送に影響のある部分の現場着手は、令和6年7月1日からとする。但し、施設及び監督員との協議により承諾を得た場合は、この限りではない。
※ 防水改修等の施設運営と並行して施工可能な改修は、施設及び監督員と協議の上、早期に着手するよう努めること。
※ 高所等の施工箇所での完成検査時に確認が困難な工事については、足場解体前に市検査課による随時検査（書類を含む）を受けること。また、当該検査の合格をもって足場解体を行うこと。
※ 下記に示す改修工事について、9月14日以降の施設運営に支障がないよう、市検査課の中間検査（書類を含む）を受け、9月13日までに引き渡すこと。
・外壁改修、1階内部改修、ブラットホーム部改修、2階大会議室改修、階段室改修

③ 発生材の処理等
(1.3.12)

本工事は、その施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成12年5月31日法律第104号。以下「建設リサイクル法」という。）施行令で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事であるため、建設リサイクル法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。
工事契約後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難しい場合は、監督員と協議するものとする。
・分別解体等の方法

工程	作業の有無	分別解体等の方法
造成等	・有 ○ 無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用
基礎・基礎ぐい	・有 ○ 無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用
上部構造部分・外装	○有 ・ 無	○手作業 ・手作業、機械作業の併用
屋根	○有 ・ 無	○手作業 ・手作業、機械作業の併用
建築設備・内装等	○有 ・ 無	○手作業、機械作業の併用
その他 ()	・有 ・ 無	○手作業 ・手作業、機械作業の併用

○ 引き渡しを要するもの ○ 無 ・
・ 特別管理産業廃棄物 ・有（ ・PCBを含む機器類 ・廃油、廃酸、廃アルカリ ・ダイオキシン類
・水銀を含む特別管理産業廃棄物 ・廃水銀等 ）
処理方法（ ）
・ 水銀使用製品産業廃棄物 ・有（ ・蛍光灯ランプ ・HIDランプ ・（ ））
「水銀廃棄物ガイドライン」（第2版）（平成31年3月 環境省環境再生・資源循環局廃棄物規制課）に基づき適切に処理すること。
○ 石綿含有成形板等解体時の留意点
1. 手ばらし等、出来るだけ粉塵の発生しない方法で行うこと。
2. 可能であれば湿潤状態（散水）として作業を進めること。
3. 飛散されない様にする。こと。
4. 保護服及び作業着を着用すること。
5. 解体されたボード等は、蓋のある容器に入れること。
6. 事前に使用箇所や状況の調査を行い記録すること。

4 建設副産物情報交換システムの利用

5 三重県産業廃棄物税

6 電気保安技術者
(1.3.3)

7 技能士
(1.7.2)

8 施工数量調査
(1.6.2)

9 調査のための破壊部分の補修
(1.5.3)

10 建築材料等

11 化学物質の濃度測定
(1.6.9)

12 特別な材料の工法

13 騒音・振動の防止

14 工事写真
(1.2.4)

15 完成図等
(1.8.2)
(1.8.3)

16 完成写真

17 設備工事との取合い

18 既存部分等への処置
(1.3.13)

19 事故の発生時

20 消防提出書類

21 労働安全衛生法に基づく労働災害防止措置

22 不正軽油の使用の禁止

・ 現場において再利用を図るもの（ ）
○ 再資源化を図るもの ○ コンクリート塊
○ アスファルトコンクリート塊
・ 建設発生木材
・（ ）
引渡を要するもの、再資源化を図るものについては調書を作成し、監督員へ提出すること。
引渡を要するもの以外のものは、全て構外に搬出し、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、資源の有効な利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、その他関係法令によるほか、「建設副産物適正処理推進要綱」に従い適切に処理し、監督員にマニフェストA、B2、D票を提示すること。
受注者は、工事着手前及び工事完了後に「再生資源利用計画書（実施書）」、「再生資源利用促進計画書（実施書）」を監督員に提出することとし、また、法令等に基づき、再生資源利用計画を工事現場の公衆が見えやすい場所に掲げること。
なお、工事着手前にはJACICが運営する「建設副産物情報交換システム」へデータ入力し、工事完了時にはシステムへ実績報告を行うこと。
本工事には産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が課税対象となった場合には完成年度の翌年度の4月1日から8月31日までの間に別に定める様式に産業廃棄物税納付証明書を添付して当該工事の発注者に対して支払請求を行うことができる。
なお、この期間を超えて請求することはできない。また、産業廃棄物処理集計表（マニフェストの数量の集計）を超えて請求することはできない。
○ 配置する
職種別に可能なものについては、積極的に活用のこと。
調査範囲及び調査方法 ○ 工種別の特記による
補修方法 ・ 図示（図面番号： ） ・（ ）
1） 本工事に使用する木材は、津市公共建築物等木材利用方針に基づき、木材の利用に努めること。
2） 本工事に使用する建築材料のホルムアルデヒド放散量等は、F☆☆☆☆以上とする。
測定対象化学物質（●で示したものとす。）

適用	施設用途	ホルムアルデヒド	トルエン	キシレン	エチルベンゼン	スチレン	バジラクロロベンゼン
○	学校、教育施設	●	●	●	●	●	●
	住宅	●	●	●	●	●	
	その他	●	●	●	●	●	

測定対象室及び測定箇所数 ○ 図示（図面番号：A-8～A-11） ・（ ）
測定方法（ ○ パッシブ法 ・ アクティブ法）
測定時期 ○（ 工事完了時 ）
報告書提出部数 2部
改修標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。
低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程に基づき指定された建設機械の使用に努めること。
賞給工事写真撮影要領(国土交通省大臣官房官庁営繕部（最新版））に従い撮影する。
提出部数1部 用紙は上質紙とする。
なお、デジタル工事写真の黒基板情報電子化を行う場合は、「デジタル工事写真の黒基板情報電子化について（平成29年3月1日付け国営整第211号）」による。
作成する（ ・ 完成図 ・ 保全に関する資料 ・（ ））
完成図はCADにより作成することとし、著作権（著作権法第27条及び第28条に規定する権利を含む）にかかる著作権は発注者に移譲するものとする。また、製本2部（原図サイズ）により提出すること。
・ デジタルカメラで撮影し、全てL版相当サイズで印刷する。
（A4版用紙に1ページあたり3枚） 1部
箇所数は外観4面各室2面程度とし、規定の箇所数が確保できない場合や枚数が多大になる場合には、監督員と協議すること。写真は、着工前・施工中・完成を同一場所から、黒板なしで撮影すること。
施工範囲
○ 図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔・開口部の補強
○ 図示した壁・天井の仕上材・下地材の切込み及び補強
・ 自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強
○ 駆動装置が電動による建具等の2次側の配管・配線及び操作スイッチ
施工図
○ 設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督員の承諾を受けること。
工事施工に際し、既存部分を汚損した場合は又は損傷した場合は、監督職員に報告するとともに承諾を受けて原状に準じて補修する。
工事の施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督員に通報するとともに、所定の様式により工事事故発生報告書を監督員が指示する期日までに、監督員に提出すること。
また、事故発生後の措置について監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聴取、調査、検証等に協力すること。
1） 消火器に係る消防用設備等設置届出書の作成
○ 本工事（ ・ 建築工事 ○ 電気設備工事 ○ 機械設備工事） ・ 別途工事
2） 防火対象物使用開始届出書
書類の作成（電気設備図面の作成及び電気設備に関する部分の記入）を行うこと。
労働安全衛生法第30条第1項に規定する措置を講ずる必要がある場合、その措置を講ずべき者として、同法第30条第2項の規定に基づき、本工事の請負者を指名する。この場合における指名への同意は、本工事の請負契約を締結することにより得られたものとみなす。
1） 一般事項
市工事の施工にあたり、工事現場で使用し、又は使用させる車両（資機材等の搬出入車両を含む。）並びに建設機械等の燃料として、不正軽油(地方税法第144条の32(製造等の承認を受ける義務等)の規定に違反する燃料をいう。)を使用してはならない。

23 屋外広告物

24 石綿含有建材の調査
(1.5.1)

25 1 騒音・粉じん等の対策
(2.1.3)

26 足場
(2.2.1)
(表2.2.1)

27 既存部分の養生
(2.3.1)

28 仮設間仕切り
(2.3.2)
(表2.3.1)

29 監督員事務所
(2.4.1)

30 仮設便所

31 工事用水

32 工事用電力

33 交通誘導警備員

2 屋外広告物

石綿含有建材の調査
(1.5.1)
調査範囲 ・図示（図面番号： ） ○（改修範囲）
貸与資料 ○既存の設計図書 ○石綿含有建材の調査報告書 ・（ ）
・分析調査
分析対象 アクテノライト、アモサイト、アンフィライト、クリソタイル、クロソドライト、トレモライト
分析方法

材料名	定性分析法 JIS A 1481-1または JIS A 1481-2	定量分析法 JIS A 1481-3または JIS A 1481-4
	・箇所数（ ）	・箇所数（ ）
	・箇所数（ ）	・箇所数（ ）

サンプル数 1箇所あたり3サンプル
採取箇所 ・図面（図面番号： ） ・（ ）
1 騒音・粉じん等の対策
(2.1.3)
・ 防音パネル 設置範囲 ・ 図示（図面番号： ）
・ 防音シート 設置範囲 ・ 図示（図面番号： ）
足場
(2.2.1)
(表2.2.1)
設置する足場について、「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省平成21年4月）」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立等に関する基準」の2の(2)手すり据置き型式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。
内部足場の種別（参考） ○ 脚立 ・ 綱足場 ・ その他（ ）
外部足場の種別（参考） ○ 手摺先行据置枠組木足場 ・ 移動足場 ・ 高所作業車
・ その他（ ）
外部足場設置範囲（参考） ○ 外部改修部 ・ 設備改修部 ・ 昇降用 ・ 転落防止用
防護シート等による養生 ○ 適用する ・ 適用しない
足場の組立て後、足場に関し十分な知識と経験を有する者により点検を行い記録を保存すること。なお、「十分な知識と経験を有する者」とは、以下の者とする。
1） 足場の組立て等作業主任者であって、労働安全衛生法第19条の2に基づく足場の組立て等作業主任者能力向上教育を受けた者
2） 労働安全衛生法第81条に規定する労働安全コンサルタント（区分が土木又は建築である者）や厚生労働大臣の登録を受けた者が行う研修を修了した者等第84条に基づく足場の設置等の届出に係る「計画作成参加者」に必要な資格を有する者
3） 全国仮設安全事業協同組合が行う「仮設安全監理者資格取得講習」、建設業労働災害防止協会が行う「施工管理者等のための足場点検実務研修」を受けた者等足場の点検に必要な専門的知識の習得のために行う教育、研修又は講習を修了するなど、足場の安全点検について、上記1）又は2）に掲げる者と同等の知識・経験を有する者
既存部分の養生 ・ 図示（図面番号： ）
既存ブラインド・カーテンの養生
養生方法（ ）
保管場所 ・ 構内既存施設内
固定された備品・机、ロッカーの移動
○ 行う ・ 行わない
屋内の仮設間仕切り ・ A種 ・ B種 ・ C種
合板・厚さ ・ 9mm ・（ ）
せっこうボード 厚さ ・ 9.5mm ・（ ）
合板又はせっこうボードの塗装 ・ 行う ・ 行わない
設置箇所 ・ 図示（図面番号： ）
仕様 ・ 合板張り木製扉 ・（ ）
・ 構内建物内の一部を使用する。
・ 設置する ・ 設置しない
監督員事務所の規模(単位:㎡)

適用	10程度	20程度	35程度	65程度	100程度
監督員事務所の仕上げ					
部 位 等	仕 上 げ				
床	合板張り又はビニル床シート張り				
内壁・天井	合板張り又はせっこうボード張り、合成樹脂エマルション塗り				
屋根	装溶融亜鉛めっき鋼板張り、又は鉄板張り、調合ペイント塗り				

種類	机・いす	書棚	黒板・白板	掛時計	温度計
数量	組	台	個	個	個
種類	長靴	雨合羽	保護帽	懐中電灯	衣類ロッカー
数量	足	着	個	個	台
種類	消火器	掃除具	受注者加入電話 FAX	冷暖房機器	インターネット
数量	個	個	台	台	台

構内既存の施設
・ 利用できる ○ 利用できない
構内既存の施設
○ 利用できる（ ・ 有償 ○ 無償） ・ 利用できない
構内既存の施設
○ 利用できる（ ・ 有償 ○ 無償） ・ 利用できない
有償利用の場合において、本工事で新規受電又は既設電気回路に接続し通電した時から工事に起因する電力料金は、本工事に含まれる。
配置 ○ 図示（図面番号： A-6 ）

令和 年 月

A-1 (原図A-2)

管理建築士 一級建築士第236153号 長岡 忠明

NAGAOKA 長岡 設計

一級建築士事務所

津市一志学校給食センター長寿命化改修工事

建築特記仕様書-1

④	塗り仕上げ (4.5.2) (表4.5.1(その1) (その2))	種 類	呼び名	仕上げ形状	工法		
		薄付け仕上塗材	・ 外装薄塗材 E	・ 砂壁状	吹付け		
				・ ゆず肌状			
				・ 平たん状	こて		
				・ 凹凸状			
				・ ゆず肌状	ローラー		
		・ さざ波状					
		・ 着色骨材砂壁状	・ 吹付け				
			・ こて				
		・ ()	・ ()	・ ()			
厚付け仕上塗材	・ 外装厚塗材 C	・ 吹放し	吹付け				
		・ 凸部処理					
		・ 平たん状					
		・ 凹凸状	こて				
		・ ひき起し					
・ 外装厚塗材 Si	・ 吹放し	吹付け					
	・ 凸部処理						
	・ 平たん状	・ こて					
	・ 凹凸状	・ ローラー					
	・ ひき起し						
複層仕上塗材	○ 複層塗材 E ・ 複層塗材 RE ・ 防水形複層塗材 E ・ 防水形複層塗材 RE	・ ゆず肌状	ローラー				
		・ 凸部処理	吹付け				
		○ 凹凸状					
		・ ()	・ ()				
		・ ()	・ ()				
可とう形改修用 仕上塗材	・ 可とう形改修塗材 E ・ 可とう形改修塗材 RE ・ 可とう形改修塗材 OE	・ 平たん状	ローラー				
		・ さざ波状					
		・ ゆず肌状	吹付け				
		・ 外装厚塗 C の上塗材がセメントスタッコ以外の場合 材所要量 (kg/m2)					
		・ マスチック塗材塗り ・ A 種 ・ B 種					
(4.6.2)		複層仕上塗材及び可とう形改修塗材の上塗材の種類					
(表4.6.1)		樹脂種類	溶媒種類	外 観			
(表4.5.2)		・ アクリル系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック			
			・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無			
			・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無			
		・ シリカ系	・ 水系	・ 艶無			
			・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック			
			・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無			
		・ ポリウレタン系	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無			
			・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック			
			・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無			
		・ アクリル シリコン系	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無			
			・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック			
			・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無			
		○ ふっ素系	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無			
			○ 溶剤系	○ 艶有 ・ 艶無			
			○ 水系	○ 艶有 ・ 艶無			
		(注)		艶無及びメタリックは、可とう形複層塗材、防水形複層塗材、及び可とう形改修塗材には適用しない。			
		(表4.7.1)		外壁用塗膜防水材の仕上げの形状及び工法			
				種類	仕上げの形状	工法	
外壁用塗膜防水材	・ 凹凸状			・ 吹付け			
	・ 凸部処理						
	・ ゆず肌状	・ ローラー					
	・ さざ波状						
(4.5.4)		既存塗膜等の除去及び下地処理					
		工 法	処理範囲				
		・ サンダー工法					
		○ 高圧水洗工法 (30～50MPa)	外壁 (ALC、RC)				
(4.5.5)		・ 塗膜はく離剤工法					
		○ 水洗い工法 (○ 高圧ポンプ (10～15MPa) ・ デッキブラシ)	外壁 (ケレン板)、巾木				
		下地調整					
		○ C-1 ・ C-2 ・ CM-2 ○ E ・ ()					
5 建 具 改 修 工 事	1 改修工法 (5.1.3)	・ かぶせ工法 ・ カバー工法 ・ 持出し工法 ・ ノンシール工法					
		・ 撤去工法 ・ はつり工法 ・ 引抜き工法					
		2 防火戸 (5.1.4)	・ 例示仕様	・ 個別認定 (認定番号:)			
			・ 自動閉鎖機構	・ 図示 (図面番号:)			
		3 見本の製作 (5.1.5)	・ 製作する ・ 製作しない				
		4 防犯建物部品 (5.1.7)	・ 図示 (図面番号:)				
		5 ブラインドボックス等 (5.1.6) (3)	・ 再使用する ・ 再使用しない				
		6 アルミニウム製 建具 (5.2.2) (5.2.4) (表5.2.1)	外部建具の性能等級等 ・ A 種 ・ B 種 ・ C 種				
			・ 枠の見込み寸法 ・ 70mm ・ ()				
			・ 防音ドアセット、防音サッシ (等級)				
・ 断熱ドアセット、断熱サッシ (等級)							
(表5.2.2)		・ 結露水の処理方法 ・ 図示 (図面番号:)					
		アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理の種類					
		・ 外部に面する建具 (過酷な環境の屋外)					
		・ BA-1 ・ BA-2 ・ ()					
		・ 外部に面する建具 (一般的な環境の屋外)					
		・ BB-1 ・ BB-2 ・ ()					
		・ 内部に面する建具					
		・ BC-1 ・ BC-2 ・ ()					
		津市一志学校給食センター長寿命化改修工事	令和 年 月	A-3 (原図 A-2)			
				管理建築士 一級建築士第236153号 長岡 忠明			

⑦

アクリル樹脂系
非水分散形塗料
(NAD)

(7.7.2)
(表7.7.1)

⑧

耐候性塗料塗り
(DP)

(7.8.2)～
(7.8.4)
(表7.8.1)～
(表7.8.3)

⑨

つや有合成樹脂
エマルジョンペ
イント塗り
(EP-G)
(7.9.2)～(7.9.5)
(表7.9.1)～
(表7.9.4)

10

合成樹脂エマ
ルションペイ
ント塗り(EP)
(7.10.2)
(表7.10.1)

11

ウレタン樹脂
ワニス塗り
(UC)

(7.11.2)
(表7.11.1)

12

ステイン塗り
(OS)

(7.12.2)
(表7.12.1)

13

木材保護塗料
塗り(WP)
(7.13.2)
(表7.13.1)

①

石綿含有建材の
除去工事
(9.1.1)

種別

・ A種 ○ B種

上塗り等級

○ 1級(フッ素系) ・ 2級(シリコン系) ・ 3級(ポリウレタン系)

下地	種別
コンクリート面及び 押出成形セメント板面	・ A－1種 ・ A－2種 ・ B－1種 ・ B－2種 ・ C－1種 ・ C－2種

種別

下地	種別
コンクリート、モルタル、 プラスター、せっこうボード、 その他ボード面	・ A種 ○ B種 ・ C種 しみ止め ()
木部(屋内)	・ A種 ・ B種 ・ C種
鉄鋼面(屋内)	・ A種 ・ B種 ・ C種
亜鉛めっき鋼面(屋内)	・ A種 ・ B種 ・ C種

種別

・ A種 ・ B種 ・ C種
しみ止め ・ ()

種別

・ A種 ・ B種
工程1の着色 ・ 適用する ・ 適用しない

種類

・ ビグメントステイン塗り ・ オイルステイン塗り
オイルステイン塗りの工程、塗料 ・ ()

種別

・ A種 ・ B種

①

石綿含有建材の
除去工事
(9.1.1)

・ 石綿粉じん濃度測定
測定時期、場所及び測定点

適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点 (各施工箇所ごと)
・	測定 1	処理作業前	処理作業室内	計 点
・	測定 2		調査対象室外部の付近	計 点
・	測定 3	処理作業中	処理作業室内	計 点
・	測定 4		負圧・除じん装置の排出吹出し口	出口吹出し風速1m/s以下の位置 計 点
・	測定 5		処理作業室外(敷地境界)	計 点
・	測定 6	処理作業後 (シート養生中)	処理作業室内	計 点
・	測定 7	処理作業後シート撤去後 1 週間以降	処理作業室内	計 点
・	測定 8		調査対象室外部の付近	計 点

測定方法

	測定 3	測定 1, 2, 4, 6, 7, 8	測定 5
メンブレンフィルタ直径(mm)	25	25	47
試料の吸引流量(L/min)	・ 1 ・ ()	・ 5 ・ ()	・ 10 ・ ()
試料の吸引時間(min)	・ 5 ・ ()	・ 120 ・ ()	・ 240 ・ ()

(9.1.3)

・ 石綿含有吹付け材の除去

除去対象範囲 ・ 図示(図面番号：)

除去工法 ・ 改修標準仕様書9.1.3(2)(7)による ・ ()

除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止

・ 湿潤化 ・ 固形化

除去した石綿含有吹付け材等の処分

・ 埋立処分(管理型最終処分場) ・ 中間処理(溶融又は無害化による)

(9.1.4)

・ 石綿含有保温材等の除去

除去対象範囲 ・ 図示(図面番号：)

除去方法 ・ 改修標準仕様書9.1.4(1)による ・ ()

除去した石綿含有保温材等の処分

・ 埋立処分(管理型最終処分場) ・ 中間処理(溶融又は無害化による)

(9.1.5)

○ 石綿含有成形板の除去

除去対象範囲 ○ 図示(図面番号： A-7)

石綿含有せっこうボードの処分

埋立処分(管理型最終処分場)

石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板の処分

・ 埋立処分(安定型最終処分場) ・ 中間処理(溶融又は無害化による)

(9.1.6)

・ 石綿含有仕上塗材の除去

除去対象範囲 ・ 図示(図面番号：)

除去した石綿含有仕上塗材等の処分

・ 埋立処分(管理型最終処分場) ・ 中間処理(溶融又は無害化による)

※大気汚染防止法および石棉障害予防規則に加え、「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル(令和3年3月)」に基づき適切に処理すること。

・ 除去等作業の結果報告

除去等作業が終了したときは環境省令で定めるところにより、その結果を遅滞なく発注者に書面で報告すること。

2

断熱アスファルト防水改修工事
(9.2.1)～
(9.2.3)

改修特記仕様書3章による

3

外断熱改修工事
(9.3.2)

断熱材

種類	厚さ [mm]
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	
・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキンなし)	
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材	
・ フェノールフォーム断熱材	
・ ロックウール断熱材	
・ グラスウール断熱材	
・ ()	

施工箇所

・ 図示 (図面番号:) ・ ()

外装材

種類	防火性能	備考
・		

(9.3.3) 既存外壁の措置

既存外壁仕上げ材の撤去

・ あり ・ なし

下地の清掃

・ 行う ・ 行わない

欠損部の改修工法

・ 充填工法 ・ モルタル塗替え工法 ・ ()

(9.3.4) 工法

通気層の有無

・ あり (mm) ・ なし

断熱材の施工

・ 断熱材製造所の仕様による ・ ()

外装材の施工

・ 外装材製造所の仕様による ・ ()

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法

・ 適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力の (・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法)

・ 適用しない

不陸等の下地調整

・ 行う

4

断熱・防露改修工事
(9.5.2)

断熱材打込み工法

種類	厚さ [mm]
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	
・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキンなし)	
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材	
・ フェノールフォーム断熱材	
・ ()	

施工箇所

・ 図示 (図面番号:) ・ ()

(9.5.3) 断熱材現場発泡工法

断熱材の種類

・ A種1 ・ A種1H ・ ()

厚さ (mm)

・ 25 ・ 30 ・ ()

施工箇所

・ 図示 (図面番号:)

現場発泡断熱材
(品質・性能)

工事建築材料等品質性能表による
(試験方法)

工事建築材料等品質性能表による

(9.5.4) 断熱材後張り工法

種類	せっこうボード等の張り付け	厚さ [mm]
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	・ 有 ・ 無	
・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材	・ 有 ・ 無	
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材	・ 有 ・ 無	
・ フェノールフォーム断熱材	・ 有 ・ 無	
・ ()	・ 有 ・ 無	

施工箇所

・ 図示 (図面番号:) ・ ()

5

屋上緑化改修工事
(9.6.1)
(9.6.2)
(9.6.3)

植栽基盤及び材料
屋上緑化軽量システム

(9.6.1) ・ 適用する ・ 適用しない

(9.6.2) 芝及び地被類の樹種並びに種類等

見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等

・ 図示 (図面番号:) ・ ()

・ 図示 (図面番号:) ・ ()

(9.6.3) 工法

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法

・ 適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力の (・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法)

・ 適用しない

かん水装置

・ 設置する (種類 ・ ・ ()

既存保護層の撤去

・ 行う ・ 行わない

6

透水性アスファルト舗装改修工事
(9.5.2)～
(9.5.7)
(9.5.9)

既存舗装の撤去及び再利用

・ 図示（図面番号： ） ・ （ ）

路床

路床の材料

種別	材料	厚さ[mm]
・ 盛土	・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ 建設汚泥から再生した処理土	・ 図示（図面番号： ） ・ （ ）
・ 凍上抑制層	・ 再生クラッシャーラン ・ クラッシャーラン ・ 切込み砂利 ・ 川砂、海砂又は良質な山砂 （7μmふるい通過量10%以下） ・ （ ）	・ 図示（図面番号： ） ・ （ ）
・ フィルター層	・ 砂 ・ （ ）	・ 図示（図面番号： ） ・ （ ）

路床安定処理

・ 添加材料による安定処理

種類 ・ 普通ポルトランドセメント ・ フライアッシュセメントB種
 ・ 生石灰（・ 特号 ・ 1号） ・ 消石灰（・ 特号 ・ 1号）

添加量（ kg/m²）（目標CBR ・ 5以上 ・ ）

・ ジオテキスタイル

単位面積質量 ・ 60g/m²以上 ・ （ ）

厚さ[mm] ・ 0.5～1.0 ・ （ ）

引張強さ ・ 98N/5cm（10kgf/5cm）以上 ・ （ ）

透水係数 ・ 1.5×10⁻¹cm/sec以上 ・ （ ）

試験

路床土の支持力比（CBR）試験 ・ 行う ・ 行わない

路床締固め度の試験 ・ 行う ・ 行わない

現場CBR試験 ・ 行う ・ 行わない

路盤

路盤の構成及び厚さ ・ 図示（図面番号： ） ・ （ ）

路盤材料 ・ 再生材のクラッシャーラン
 ・ クラッシャーラン鉄鋼スラグ
 ・ 図示（図面番号： ）
 ・ （ ）

試験

路盤締固め度の試験 ・ 行う ・ 行わない

舗装

材料	厚さ[mm]
・ ストレートアスファルト	・ 図示（図面番号： ） ・ （ ）

試験

開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ・ 行う ・ 行わない

舗装の平坦性 ・ 著しい不陸がないもの ・ （ ）



プロパン庫

ボイラー室

仮設便所

現場倉庫

現場事務所

排水処理タンク

ポンプ室

一志学校給食センター

キュービクル

キュービクル

渡り廊下

プラットフォーム

配置图 S=1/300

一志中学校

※敷地内は通常、給食配送車両、食材搬入車両等が通行するため、現場事務所、現場倉庫の設置は7月1日から9月13日までとする。仮設便所の設置場所は、施設及び市監督員と協議の上、決定すること。

☆=交通誘導員を示す
(交通誘導員:1名)
(大型車両通行時のみ)

工事車両進入経路

カーポート

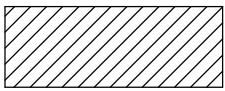
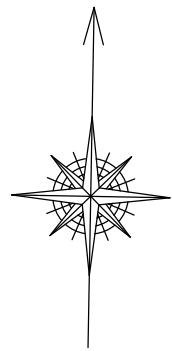
工事対象範囲を示す

外部仕上表	改修前	改修後
屋根	軽量発泡コンクリート版 厚50mm（メッシュ入）貼 緩勾配付 目地補強処理の上プチルゴム系 防水シート工法（t =20mm）シルバー仕上	防水改修（平場）水洗いの上、ウレタン防水X-1（立上り）既設防水撤去の上、下地調整、ウレタン塗膜防水X-2
	非歩行用露出防水工法 ルーフドレインはシート防水用φ100錆鉄製	ルーフドレイン：改修用ドレ
	ブラットホーム底：強化ポリエステル板 厚1.0mm折板葺 箱樋は特殊耐酸被服銅板 厚0.4加工	ブラットホーム底：既設撤去の上ガルバリウム鋼板 t=0.8折板葺替
	出窓部分：カラーアルミ厚1.0mm曲げ加工	既存のまま
バラベツト見付	軽量発泡コンクリート版 厚50mm（メッシュ入）外面がインパネル内面一般パネル貼 1階との境目バラベツトは外面版 厚100mm内面50mm貼 エポキシ系吹付け仕上（RE）	高圧水洗の上複層塗材E
バラベツト天端	カラーアルミ笠木取付 W230・270mm	一時撤去復旧
軒天井	2階部分：ケイ酸カルシウム板（7ｽﾍﾞｽﾄ含有） 厚6mm目透かし貼SOP2回ローラー仕上	下地調整の上の上EP-G
基礎立上	モルタル塗り金鍍押え	水洗い
外壁	2階部：ケイ酸カルシウム板（7ｽﾍﾞｽﾄ含有） 厚12mm樹格子貼 複層塗材（RE）エポキシ系吹付け仕上	ALC面：高圧水洗、下地調整材Eの上複層塗材E ケイ酸カルシウム板面：水洗い、下地調整材C-1の上複層塗材E 鉄部、めっき部：DP塗装
	1階部：軽量発泡コンクリート版 厚50mm（メッシュ入）一般パネル貼 複層塗材（RE）エポキシ系吹付け仕上	ALC目地、化粧目地：既設シーリング撤去の上（PU-2）20mm打替
開口部	細部は建具リストによる。	開口部廻り既設撤去の上シーリング（MS-2）20mm打替
樋	ルーフドレイン：錆鉄製焼付塗装品φ100 φ75（底、車寄） 縦樋：硬質塩化ビニル管（VP）φ100、φ75摺金物亜鉛メッキ製品 間隔1,000～1,200mm 塗装仕上	縦樋：既設縦樋撤去の上硬質塩化ビニル管（VP）φ100新設（摺み金物共）
	軒樋：硬質塩化ビニル製 角型 前高樋W150 受鉄 亜鉛メッキ製品 間隔1,000mm 塗装仕上	既存のまま
ブラットホーム	床：鉄筋コンクリート打 金鍍押え 緩勾配付 階段付 17-ﾄﾚｰﾝ風導孔埋設VPφ300アルミ化粧ガラリ付	既存のまま
	洗浄室前ブラットホーム底：カラー亜鉛・アルミ合金メッキ鋼板 厚0.8mmキャップ式	既存のまま
バルコニー	プチルゴム系シート防水工法 t 20ウオークトップ仕上（立上り共）	防水改修（平場）水洗いの上、ウレタン防水X-1（立上り）既設防水撤去の上、下地調整、ウレタン塗膜防水X-2 手摺：既存のまま

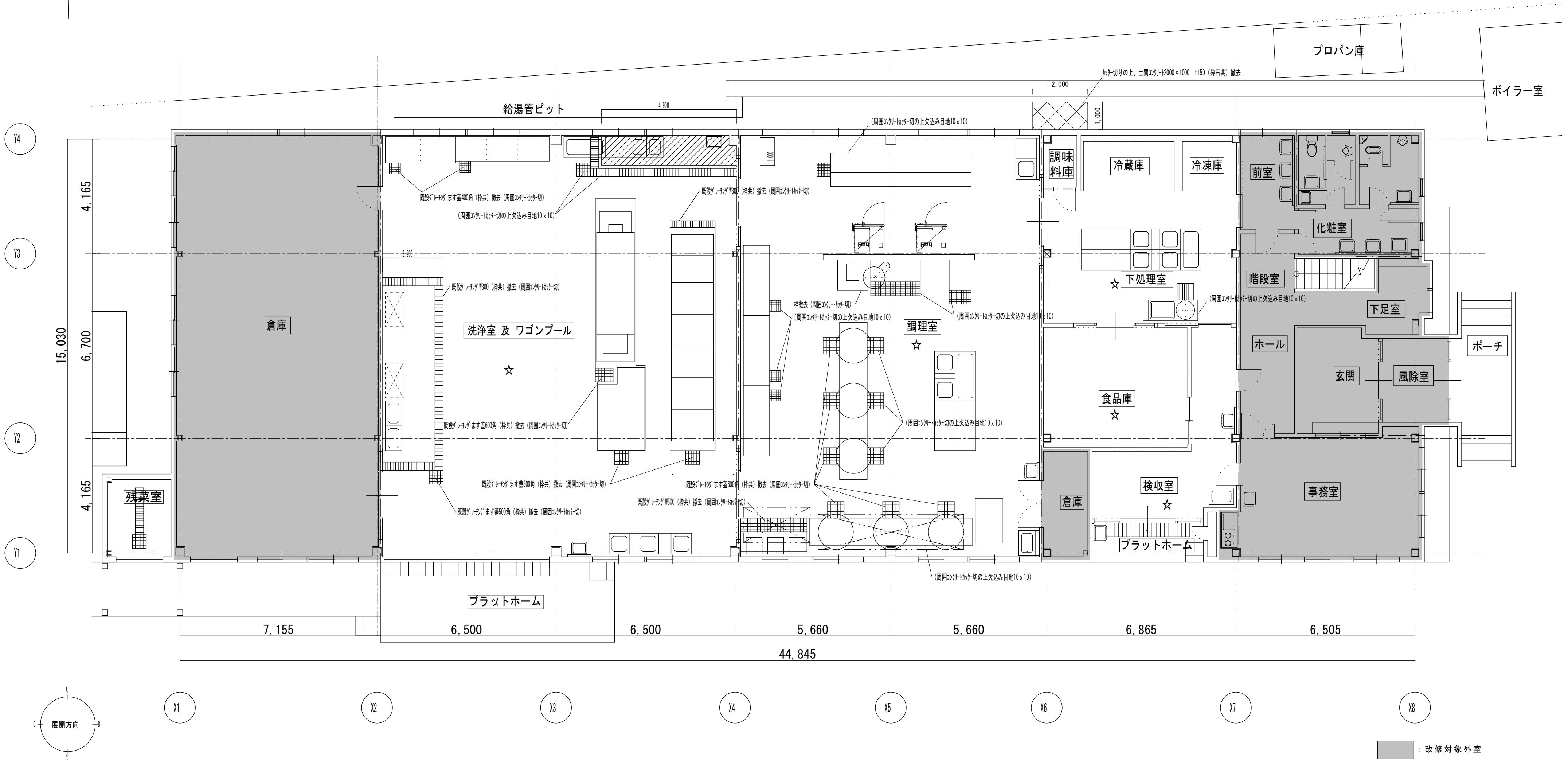
内部仕上表															
室 名		床		巾木		腰		壁		天 井		廻り縁	天井高	備 考	
		仕上材	塗装	仕上材	塗装	仕上材	塗装	仕上材	塗装	仕上材	塗装				
1階 調理室	改修前	コンクリート打同時金鍍押え	床仕上げ	モルタル金鍍押え	珪	モルタル塗金鍍押え 一部柱型ラスモルタル金鍍押え	珪	珪	珪	珪	珪	珪	塩ビ製	5700	
	改修後	既設塗り床撤去の上 エポキシ樹脂系塗り床塗替	床仕上げ	既存	珪	珪	珪	珪	珪	珪	珪	珪	既存	5700	グレーチングます蓋 新設
洗浄室及 ワゴンブール	改修前	コンクリート打同時金鍍押え	床仕上げ	モルタル金鍍押え	珪	モルタル塗金鍍押え 一部柱型ラスモルタル金鍍押え	珪	珪	珪	珪	珪	珪	塩ビ製	5700	
	改修後	既設塗り床撤去の上 エポキシ樹脂系塗り床塗替	床仕上げ	既存	珪	珪	珪	珪	珪	珪	珪	珪	既存	5700	グレーチング、グレーチングます蓋 新設
下処理室	改修前	コンクリート打同時金鍍押え	床仕上げ	(既存部) 木製H=100 (既存ALC部、新設壁部) ビニル巾木 H=100	SOP珪	(既存部) インテリヤタイル貼100 x 100 一部発泡コンクリート板 t 50貼 (冷蔵庫裏)	(既存部) 木部 SOP珪	珪	珪	珪	珪	珪	塩ビ製	2800	
	改修後	既設塗り床撤去の上 エポキシ樹脂系塗り床塗替	床仕上げ	既存	珪	(既存部) 既存のまま (既存ALC部、新設壁部) ケイ酸カルシウム板t6 新設 (一部壁LS下地共)	(既存部) 既存のまま (既存ALC部、 新設壁部) NAD塗	珪	珪	既設撤去の上 (天井下地共) 吊ボルト共撤去 化粧ケイカル板t6張 (下地張 シーリングボード t9.5)	—	7mm製	2800		
検収室	改修前	コンクリート打同時金鍍押え	床仕上げ	木製H=100	SOP珪	ケイ酸カルシウム板 t 6 (7mm含有) 目スカシ貼	珪	珪	珪	珪	珪	珪	塩ビ製	2500	
	改修後	既設塗り床撤去の上 エポキシ樹脂系塗り床塗替	床仕上げ	既存	珪	珪	珪	珪	珪	既設撤去の上 (仕上げのみ共) 化粧ケイカル板t6張 (下地張 シーリングボード t9.5)	—	7mm製	2500		
食品庫	改修前	コンクリート打同時金鍍押え	—	木製H=100	SOP珪	ケイ酸カルシウム板 t 6 (7mm含有) 目スカシ貼	珪	珪	珪	珪	珪	珪	塩ビ製	2700	
	改修後	エポキシ樹脂系塗床	床仕上げ	既存	珪	珪	珪	珪	珪	珪	珪	珪	珪	2700	
階段室	改修前	長尺塩ビシート貼	—	木製H=100	SOP珪	ニパーボード t 12下地ビニルクロス貼	—	珪	珪	化粧吸音板 t 12 ﾀｸﾏｰﾙ系 (指貼ﾌﾗｯｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ t 9)	—	塩ビ製			
	改修後	既存	珪	既設撤去の上、 巾木 (米カ) H100 新設	SOP塗り	手摺設置部：既設ニパーボード撤去の上、補強用ラワンベニヤ t 12下地 ビニルクロス貼替 H=1000	既存	珪	珪	ホリに準ずる	—	塩ビ製		手摺新設 (片側のみ)	
ホール	改修前	長尺塩ビシート貼	—	木製H=100	SOP珪	ニパーボード t 12下地ビニルクロス貼	木部 SOP珪	珪	珪	化粧吸音板 t 12 ﾀｸﾏｰﾙ系 (指貼ﾌﾗｯｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ t 9)	—	塩ビ製	2600		
	改修後	既存	珪	珪	珪	珪	珪	珪	珪	一部捨貼下地共撤去の上 化粧吸音板 t 12ﾀｸﾏｰﾙ系貼替 (下地張 石こうボード t9.5)	—	塩ビ製	2600		
大会議室	改修前	長尺塩ビシート貼	—	木製H=100	SOP珪	耐水合板 t 5.5目スカシ下地ビニルクロス貼	—	珪	珪	化粧吸音板 t 12 ﾀｸﾏｰﾙ系 (指貼ﾌﾗｯｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ t 9)	—	塩ビ製	2700		
	改修後	既存	珪	既存	SOP 塗替	既設合板撤去の上 耐水合板 t 5.5下地ビニルクロス貼	—	既設ボード撤去の上 耐水合板 t 5.5下地ビニルクロス貼	—	一部捨貼下地共撤去の上 化粧吸音板 t 12ﾀｸﾏｰﾙ系貼替 (下地張 石こうボード t9.5)	—	塩ビ製	2700		

DP塗装：耐候性塗料 SOP塗装：合成樹脂調合ペイント NAD塗装：アクリル樹脂系非水分散形塗料

仕上表



斜線部分：既設スラブ撤去範囲を示す
スラブ部はカット切の上はつり撤去
(既設157 t=150 D10@150両方向共77M)



化学物質濃度測定対象室
着工前：☆、着工後：★

NAGAOKA
一級建築士事務所

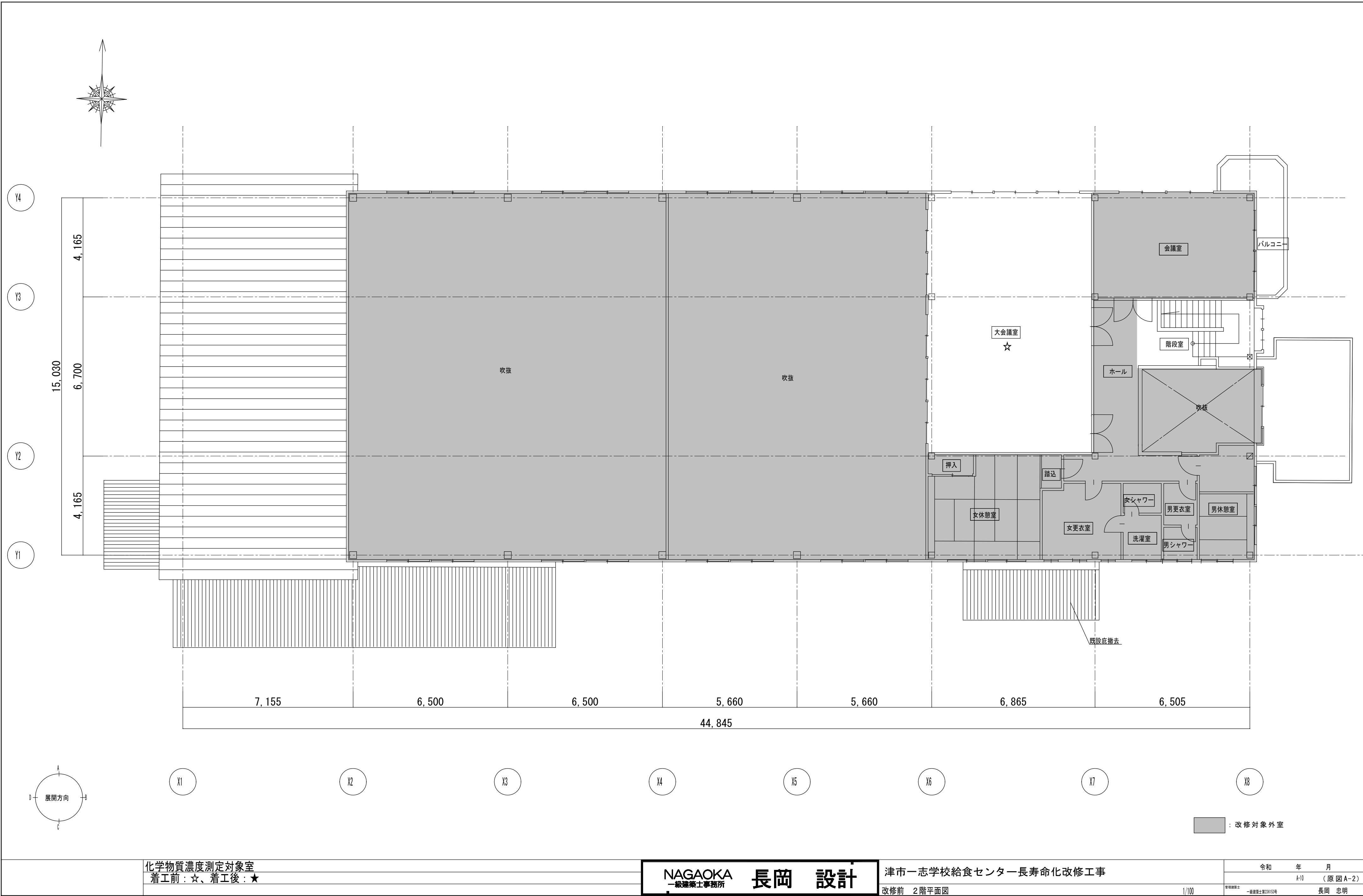
長岡 設計

津市一志学校給食センター長寿命化改修工事

改修前 1階平面図

1/100

令和 年 月
A-8 (原図 A-2)
登録建築士 一級建築士第238153号 長岡 忠明



化学物質濃度測定対象室
着工前：☆、着工後：★

NAGAOKA
一級建築士事務所

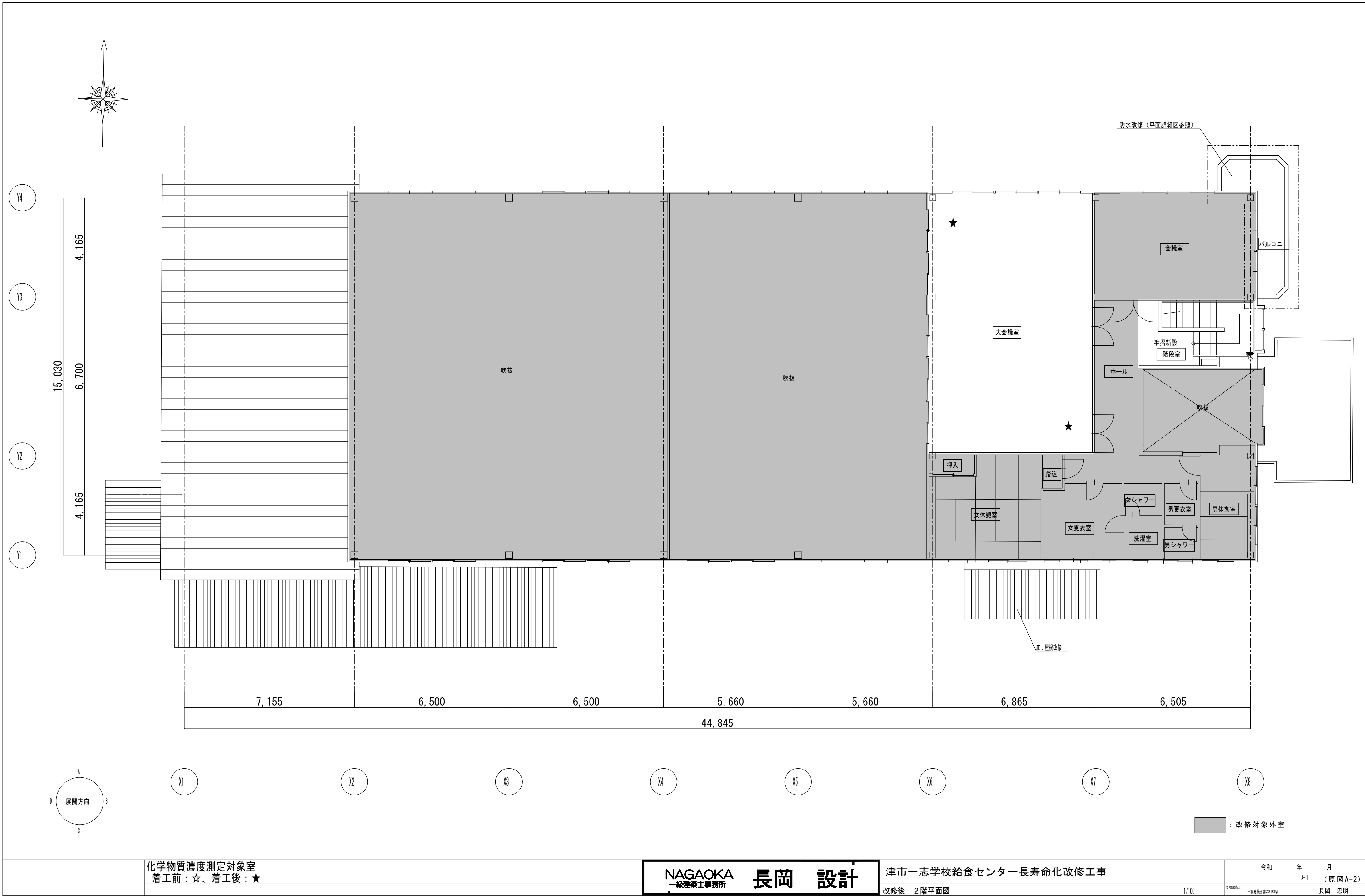
長岡 設計

津市一志学校給食センター長寿命化改修工事

改修前 2階平面図

1/100

令和	年	月
A-10		(原図 A-2)
登録建築士 一級建築士第228153号	長岡 忠明	



化学物質濃度測定対象室
着工前：☆、着工後：★

NAGAOKA
一級建築士事務所

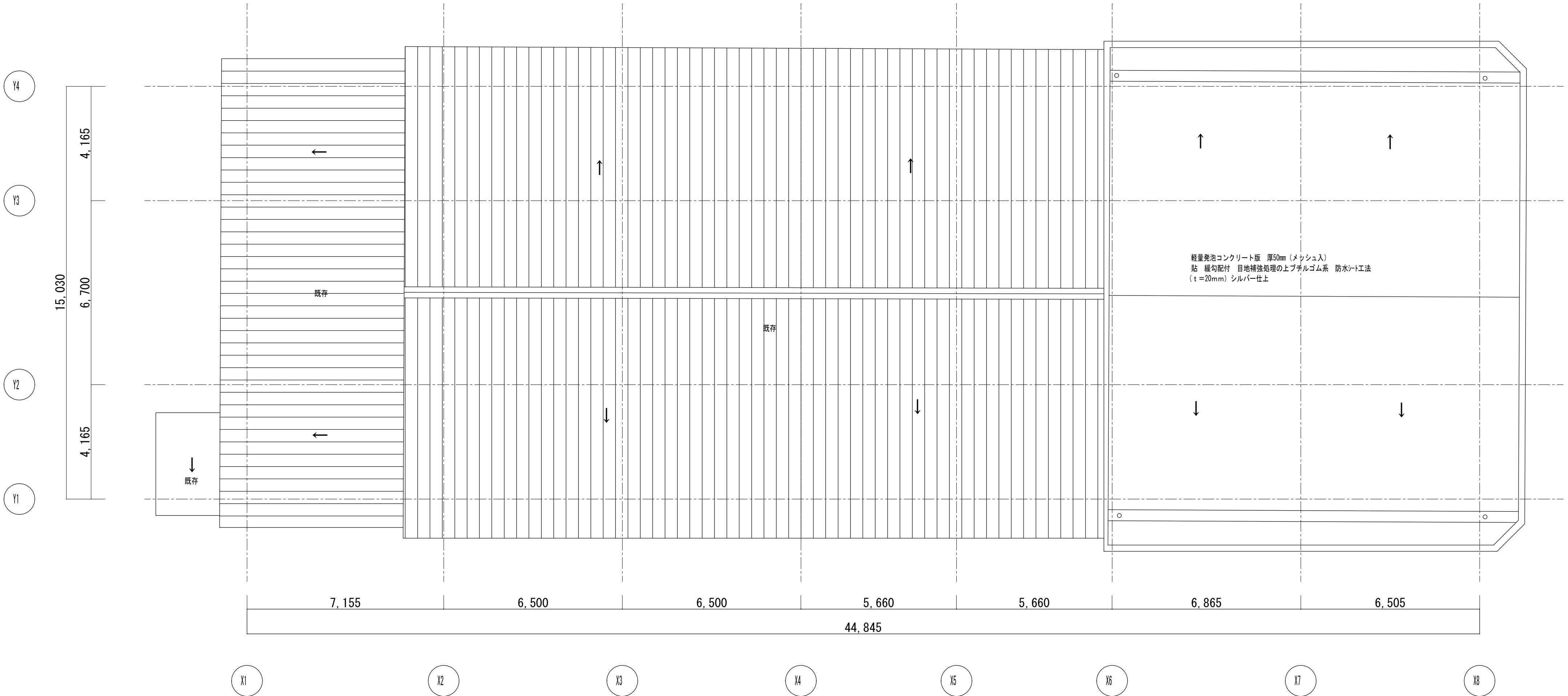
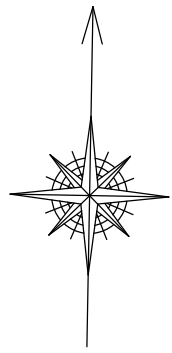
長岡 設計

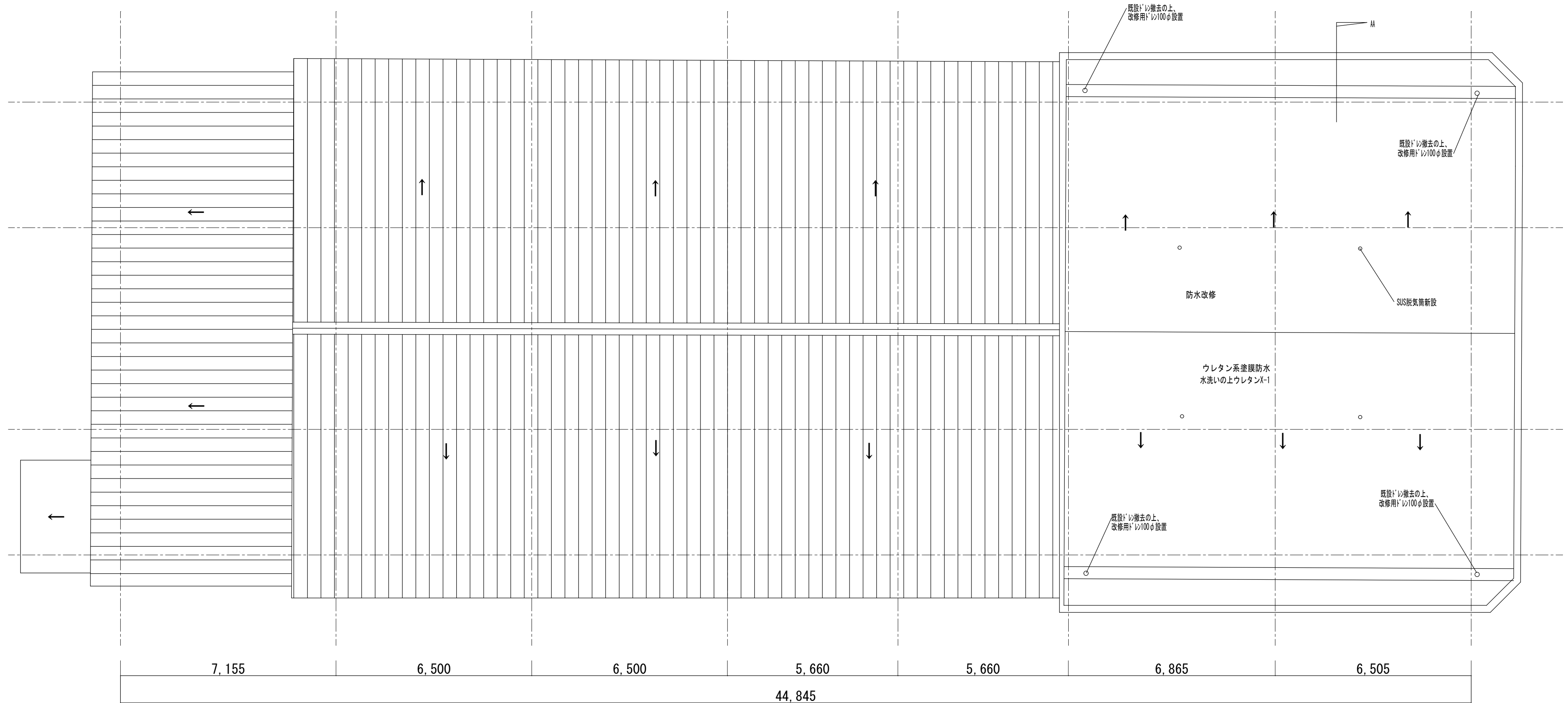
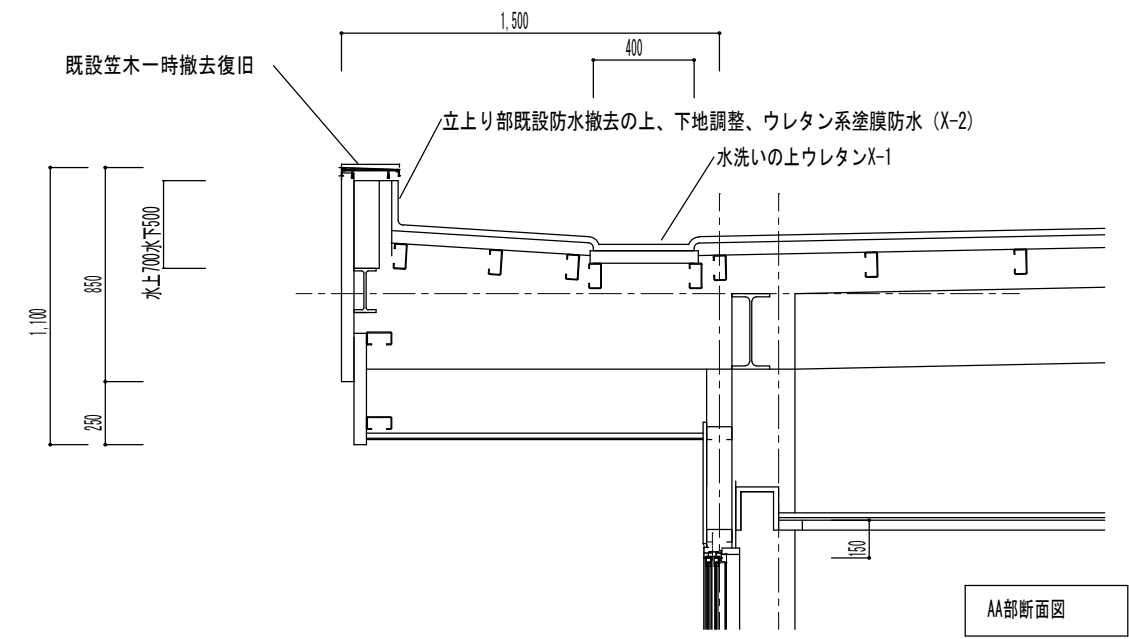
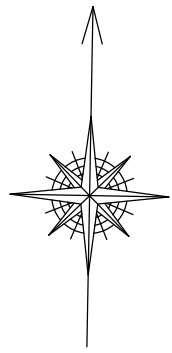
津市一志学校給食センター長寿命化改修工事

改修後 2階平面図

1/100

令和	年	月
A-11		(原図 A-2)
登録建築士 一級建築士第238153号	長岡 忠明	





NAGAOKA
一級建築士事務所

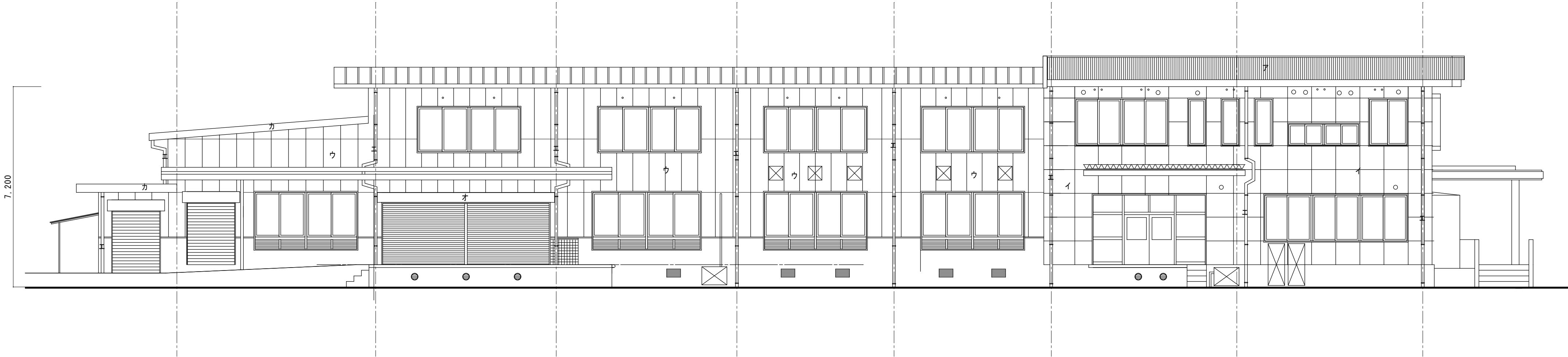
長岡 設計

津市一志学校給食センター長寿命化改修工事

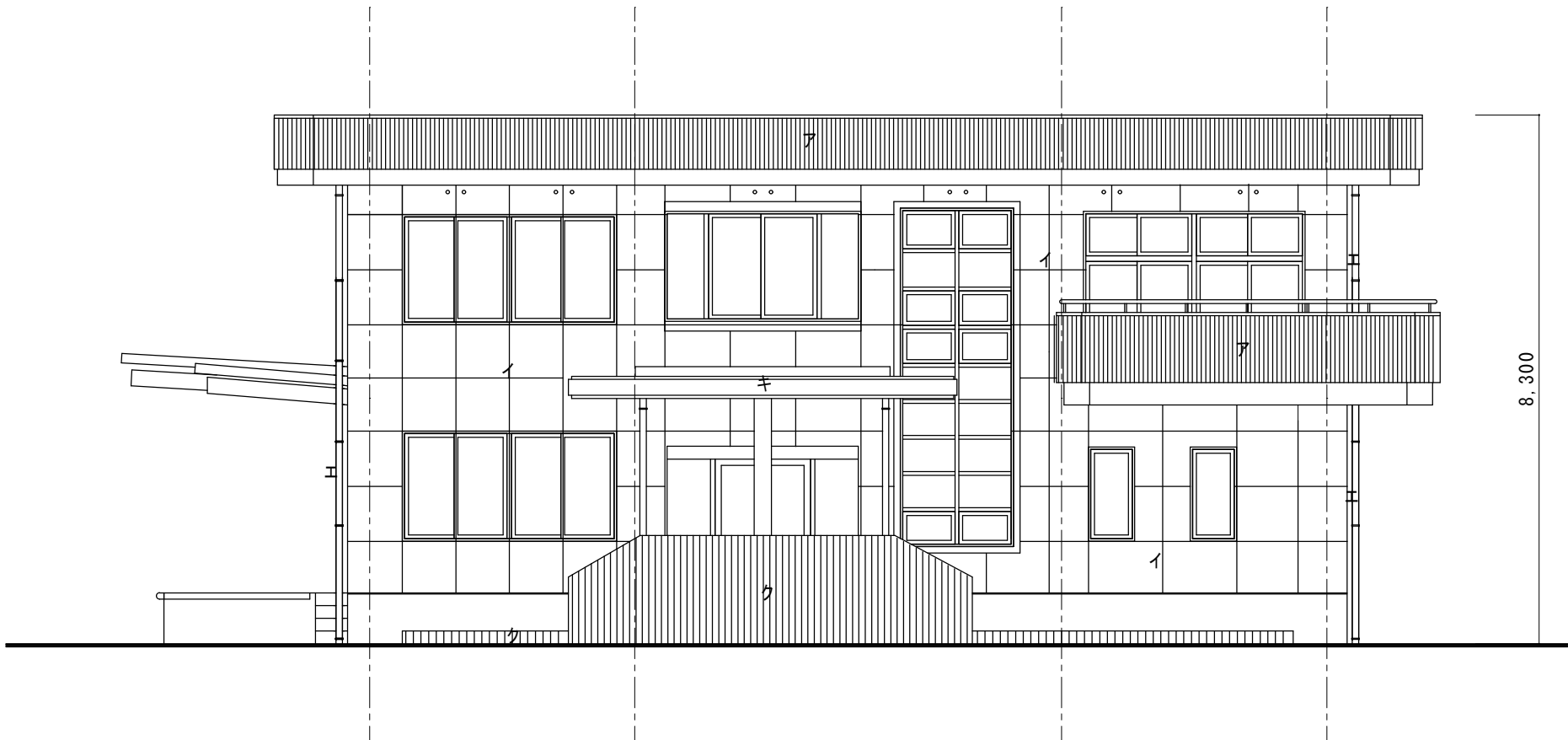
改修後 屋上階平面図

1/100

令和 年 月
H13 (原図 A-2)
専任建築士 一級建築士第238153号 長岡 忠明



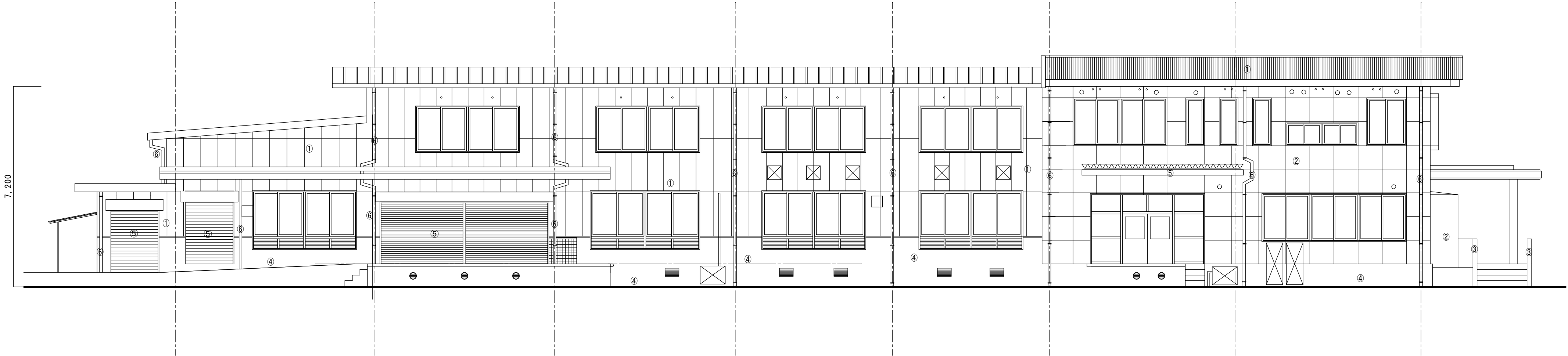
南立面図



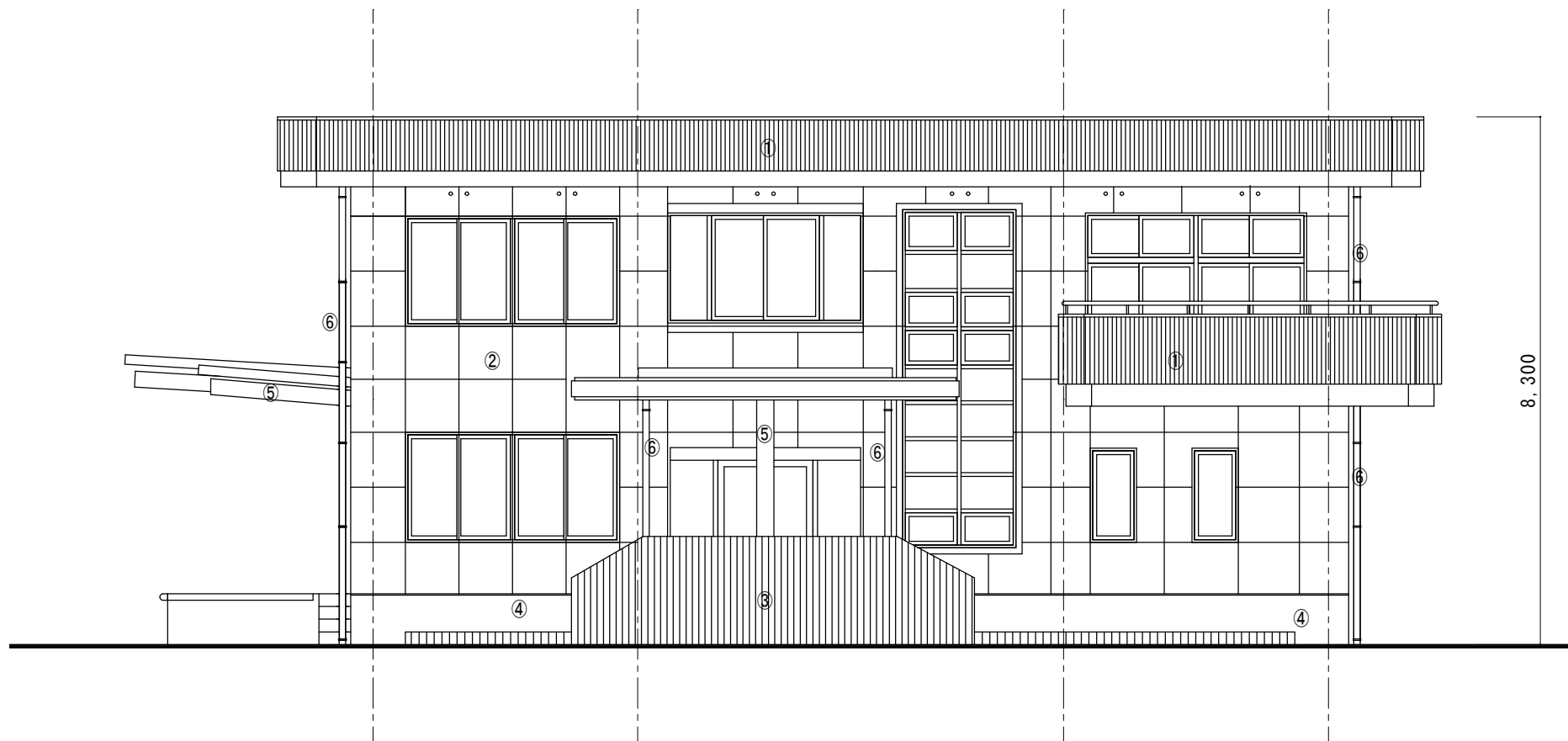
東立面図

仕上げリスト

ア	軽量発泡コンクリート版 厚50mm (メッシュ入) 外面デザインパネル
イ	ケイ酸カルシウム板 厚12mm桧格子貼 目地巾20mm
ウ	軽量発泡コンクリート板 厚50mm (メッシュ入) 一般パネル貼
エ	縦樋: 硬質塩化ビニル管 (VP) φ100、φ75樋金物垂鉛メッキ製品 間隔1,000~1,200mm 塗装仕上
オ	E7-カ-75風導孔埋設VP φ300アルミ化粧ガラリ付
カ	カラー垂鉛・アルミ合金メッキ銅板 厚0.8mmキャップ式
キ	カラーアルミパネル
ク	コンクリート打放し エポキシ系吹付タイル (RE)



南立面図



東立面図

改修仕上リスト

①	高圧水洗、下地調整材Eの上複層塗材E	ALC目地：既設シーリング撤去の上（PU-2）20mm打替
②	水洗い、下地調整材C-1の上複層塗材E	化粧目地：既設シーリング撤去の上（PU-2）20mm打替
③	高圧水洗、下地調整材C-1の上複層塗材E	
④	巾木：水洗い	
⑤	鉄部、めっき部：DP塗装	
⑥	縦樋：既設縦樋撤去の上硬質塩化ビニル管（VPカラー）φ100新設（掘み金物共）	

※：外壁に設置の設備配線、配管は見付100mm以下のものは外壁塗装と同様に塗装改修するものとする。

NAGAOKA
一級建築士事務所

長岡 設計

津市一志学校給食センター長寿命化改修工事

改修後 立面図-1

1/100

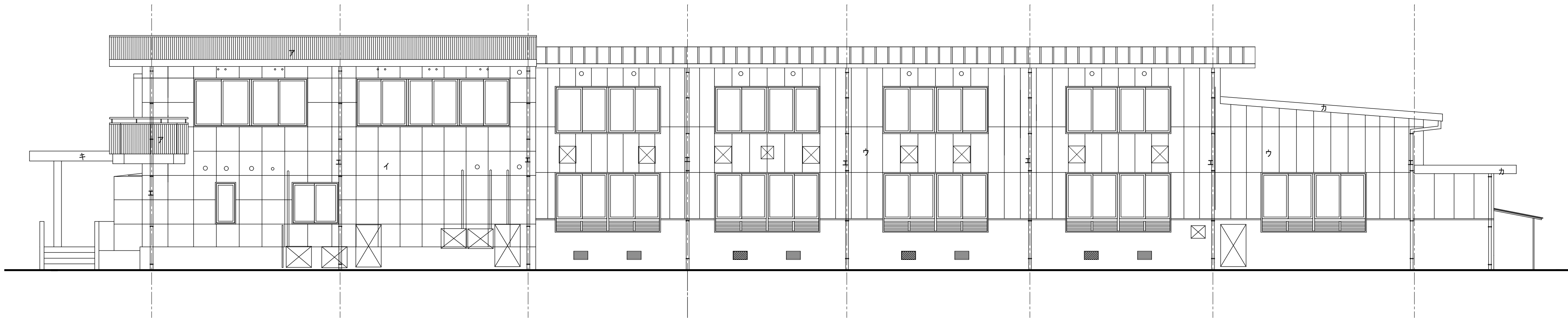
令和 年 月

A-15 (原 図 A-2)

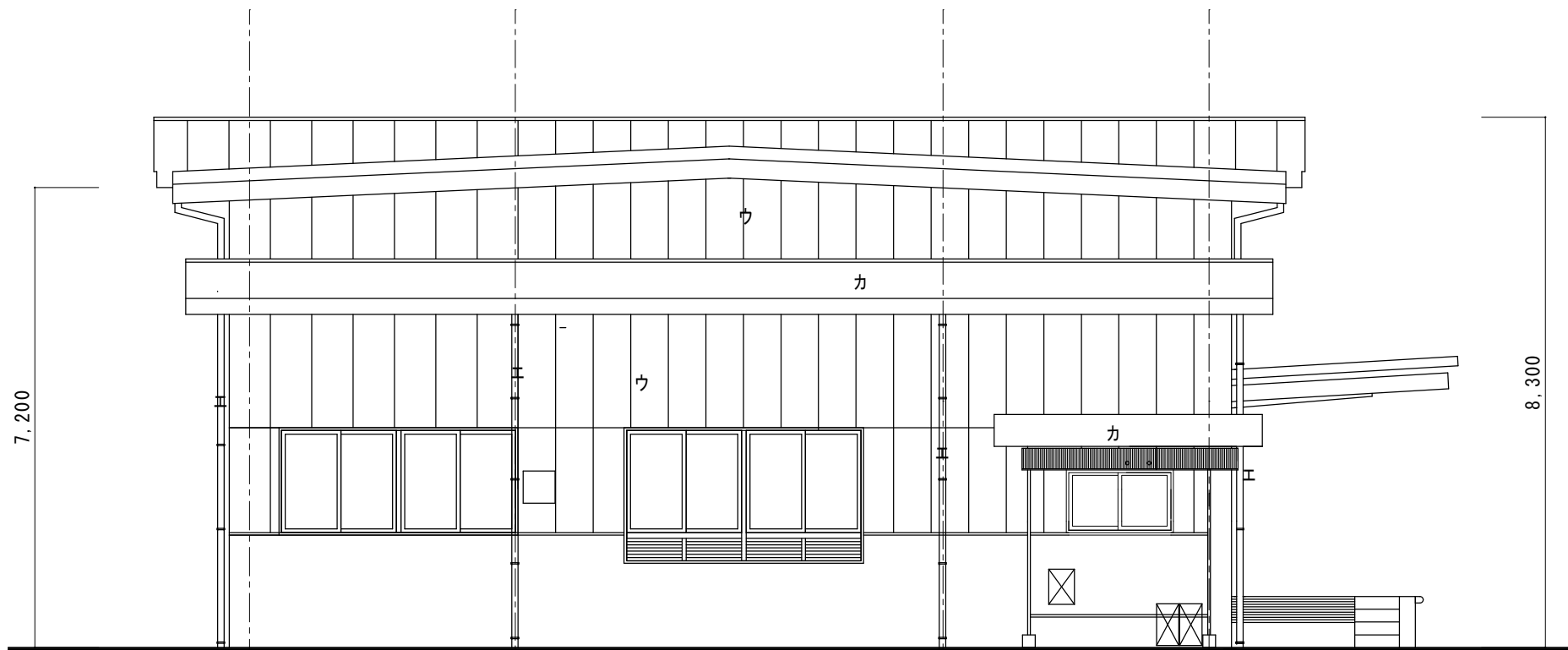
登録建築士

一級建築士第228153号

長岡 忠明



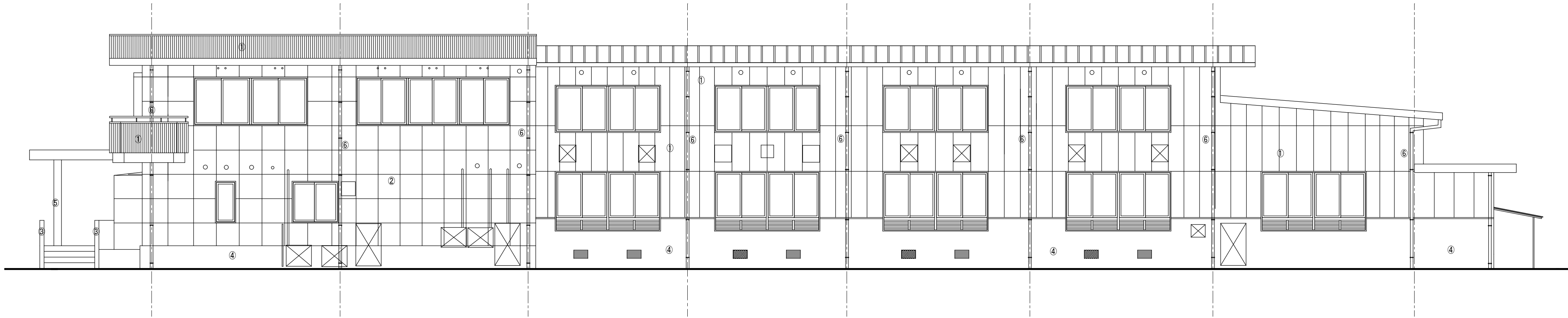
北立面図



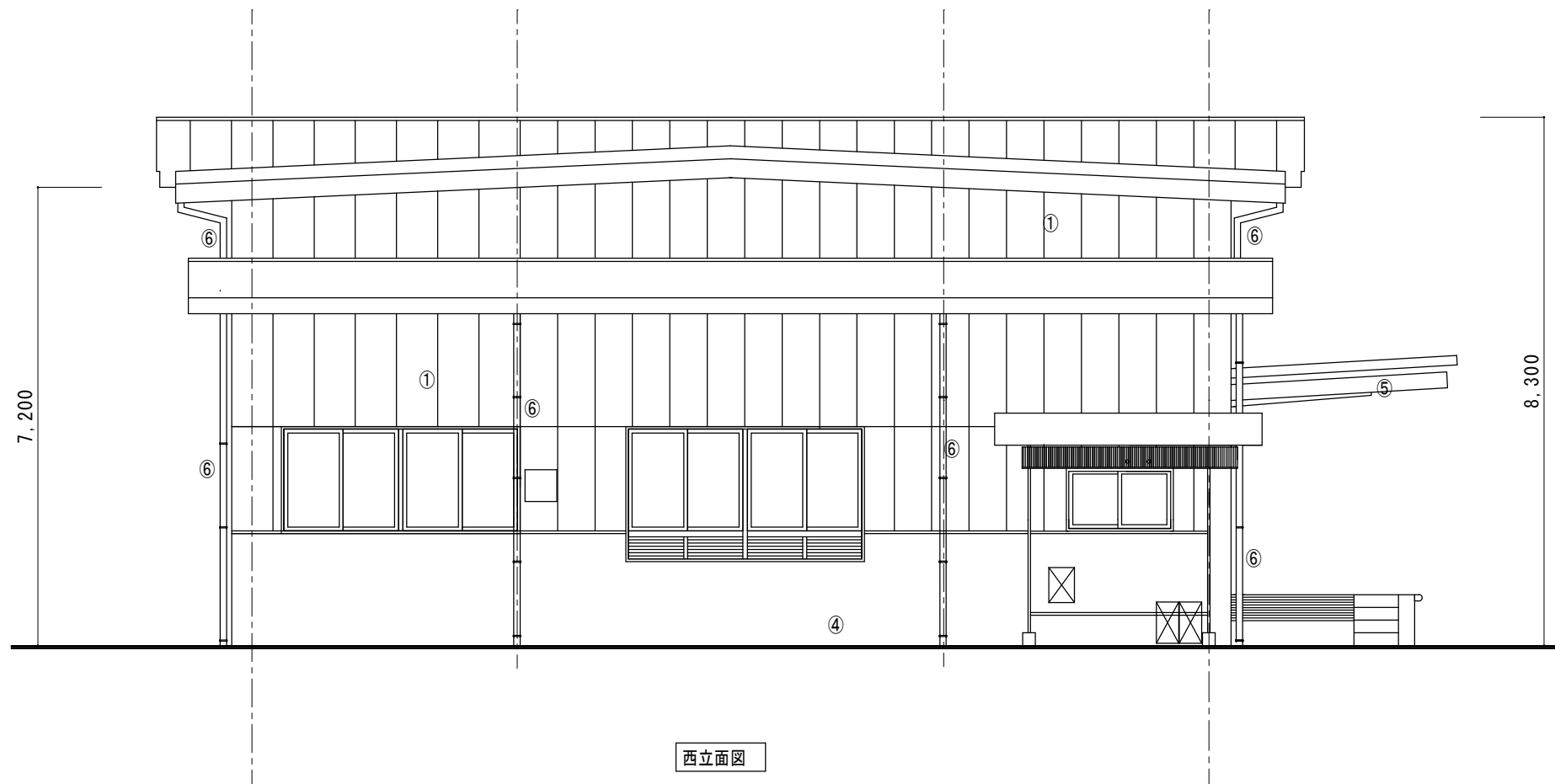
西立面図

仕上げリスト

ア	軽量発泡コンクリート版 厚50mm（メッシュ入）外面デザインパネル
イ	ケイ酸カルシウム板 厚12mm樹格子貼 目地巾20mm
ウ	軽量発泡コンクリート板 厚50mm（メッシュ入）一般パネル貼
エ	縦樋：硬質塩化ビニル管（VP）φ100、φ75樋金物亜鉛メッキ製品 間隔1,000～1,200mm 塗装仕上
オ	エア-カーテン風導孔埋設VPφ300アルミ化粧ガラリ付
カ	カラー垂鉛・アルミ合金メッキ銅板 厚0.8mmキャップ式
キ	カラーアルミパネル
ク	コンクリート打放し エポキシ系吹付タイル（RE）



北立面図



西立面図

改修仕上リスト

①	高圧水洗、下地調整材Eの上複層塗材E	ALC目地：既設シーリング撤去の上 (PU-2) 20mm打替
②	水洗い、下地調整材C-1の上複層塗材E	化粧目地：既設シーリング撤去の上 (PU-2) 20mm打替
③	高圧水洗、下地調整材C-1の上複層塗材E	
④	巾木：水洗い	
⑤	鉄部、めっき部：DP塗装	
⑥	縦樋：既設縦樋撤去の上硬質塩化ビニル管 (VPカラー) φ100新設 (摺り金物共)	

※：外壁に設置の設備配線、配管は見付100mm以下のものは外壁塗装と同様に塗装改修するものとする。

NAGAOKA
一級建築士事務所

長岡 設計

津市一志学校給食センター長寿命化改修工事

改修後 立面図-2

1/100

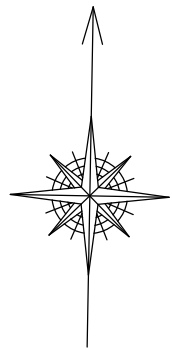
令和 年 月

A-17 (原図 A-2)

専任建築士

一級建築士第228153号

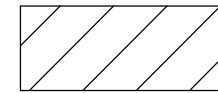
長岡 忠明



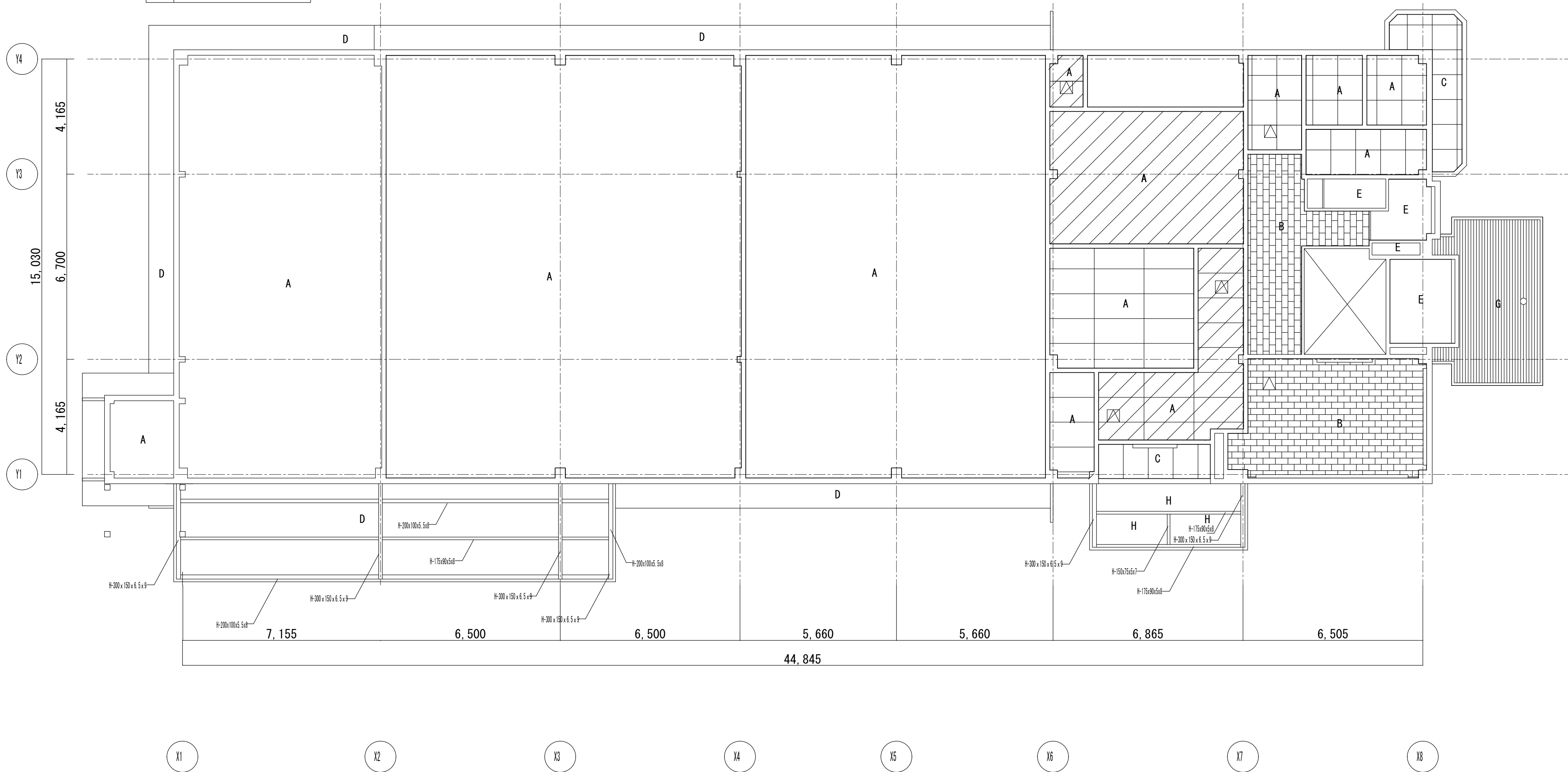
仕上げリスト

A	ケイカル板 t=6目スカシ張
B	化粧吸音板 t=12ロック系 (捨張フラスターボード t=9)
C	ケイカル板 t=6 目スカシ張SOP塗
D	屋根折板断熱材裏貼り 表し
E	テープボード 下地ビニールクロス
F	耐水合板 t=4
G	アルミスバンドレル
H	強化ポリエステル板 t=1.0折板葺 撤去

天井点検口アルミ枠450 x 450



斜線部分：撤去範囲を示す（下処理室、調味料庫は下地LGS共）



NAGAOKA
一級建築士事務所

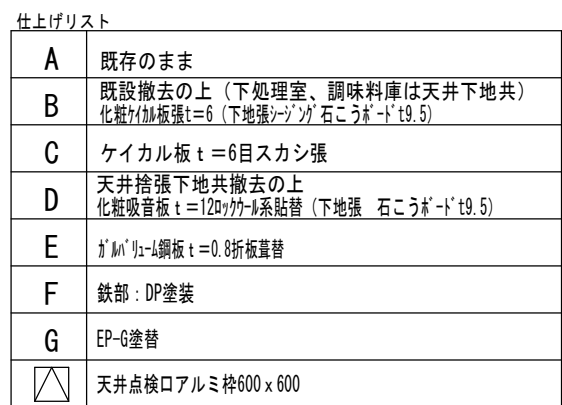
長岡 設計

津市一志学校給食センター長寿命化改修工事

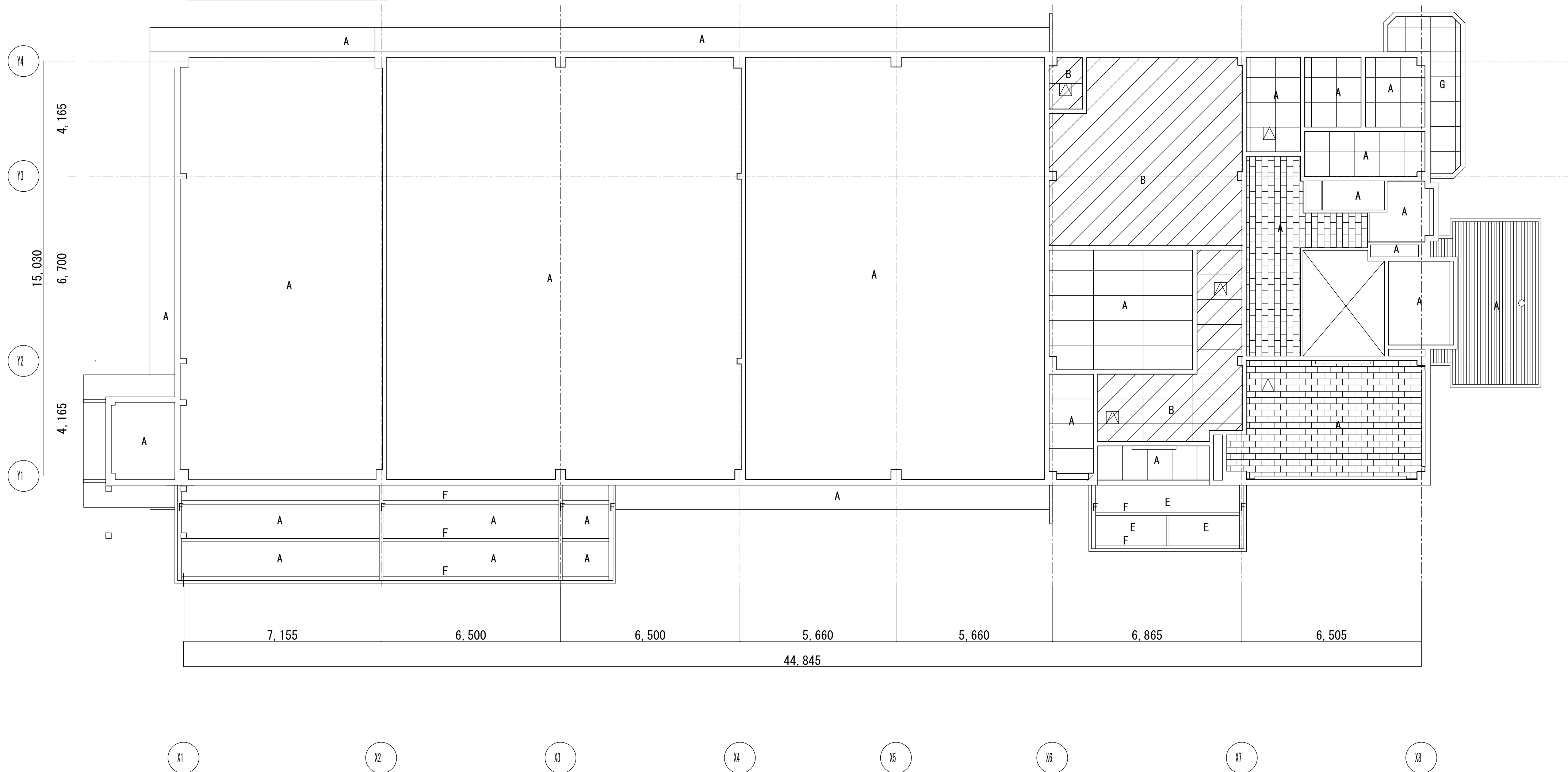
改修前 1階天井伏図

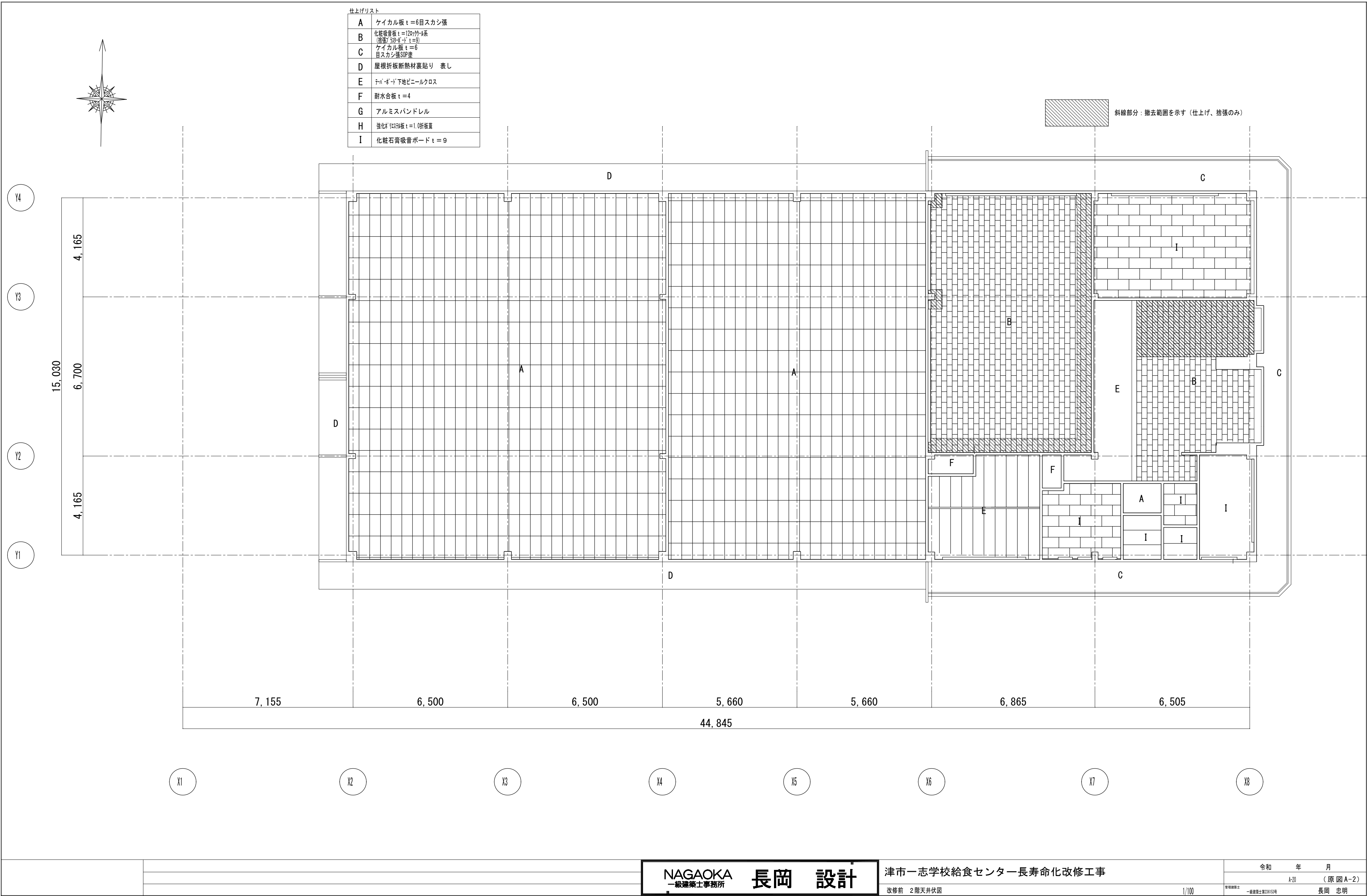
1/100

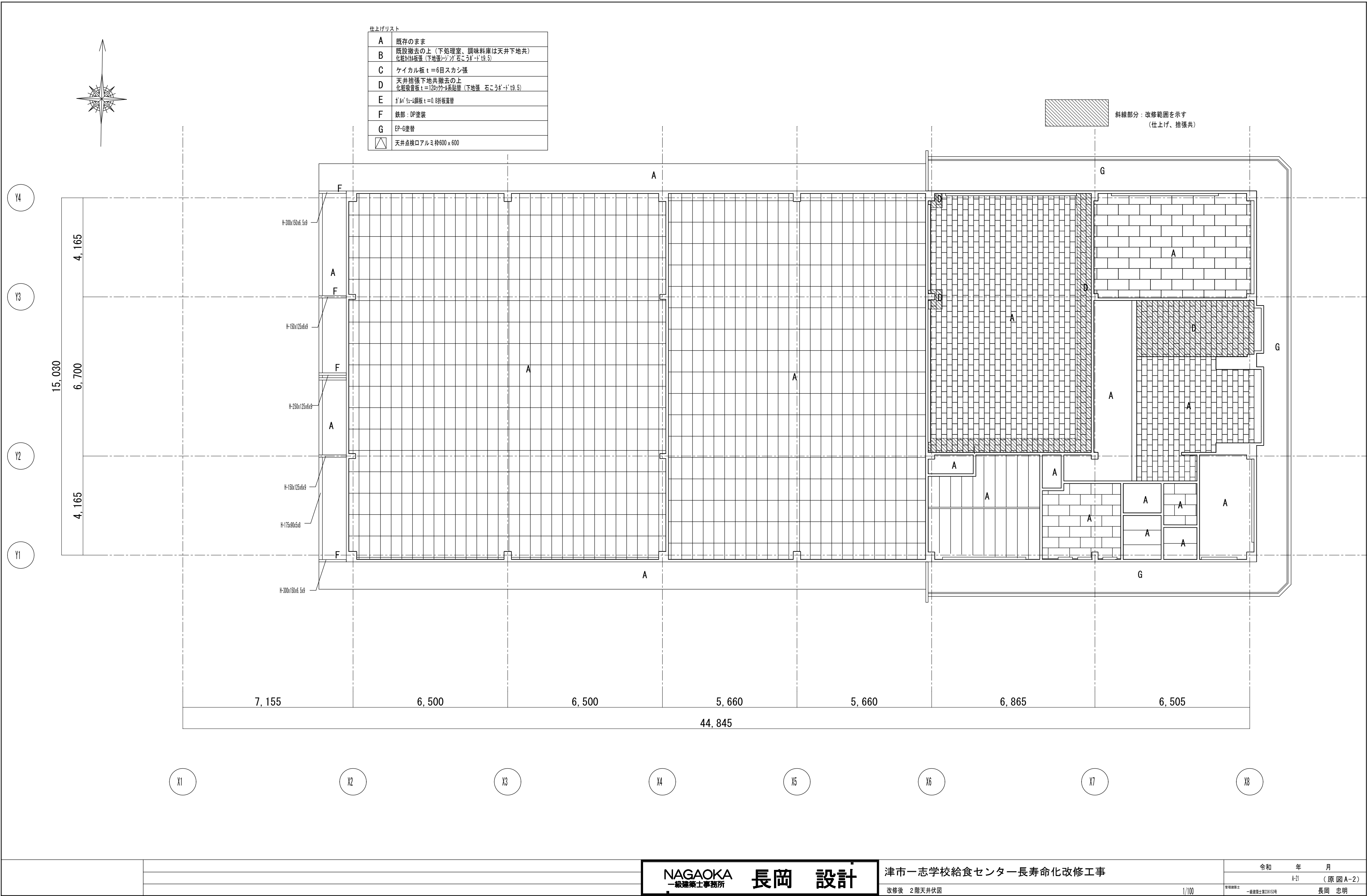
令和 年 月
A-18 (原図 A-2)
専任建築士 一級建築士第238153号 長岡 忠明



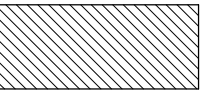
斜線部分：新設範囲を示す（下処理室、調味料庫は下地LGS共）







仕上げリスト	
A	既存のまま
B	既設撤去の上（下処理室、調味料庫は天井下地共） 化粧材貼張（下地張シツク 石こうボード t9.5）
C	ケイカル板 t=6目スカーン張
D	天井捨張下地共撤去の上 化粧石膏板 t=12mmケイカル系貼張（下地張 石こうボード t9.5）
E	g 1/2 t=1鋼板 t=0.8折板置替
F	鉄部：DP塗装
G	EP-D塗替
H	天井点検口アルミ枠600 x 600



斜線部分：改修範囲を示す
（仕上げ、捨張共）

NAGAOKA
一級建築士事務所

長岡 設計

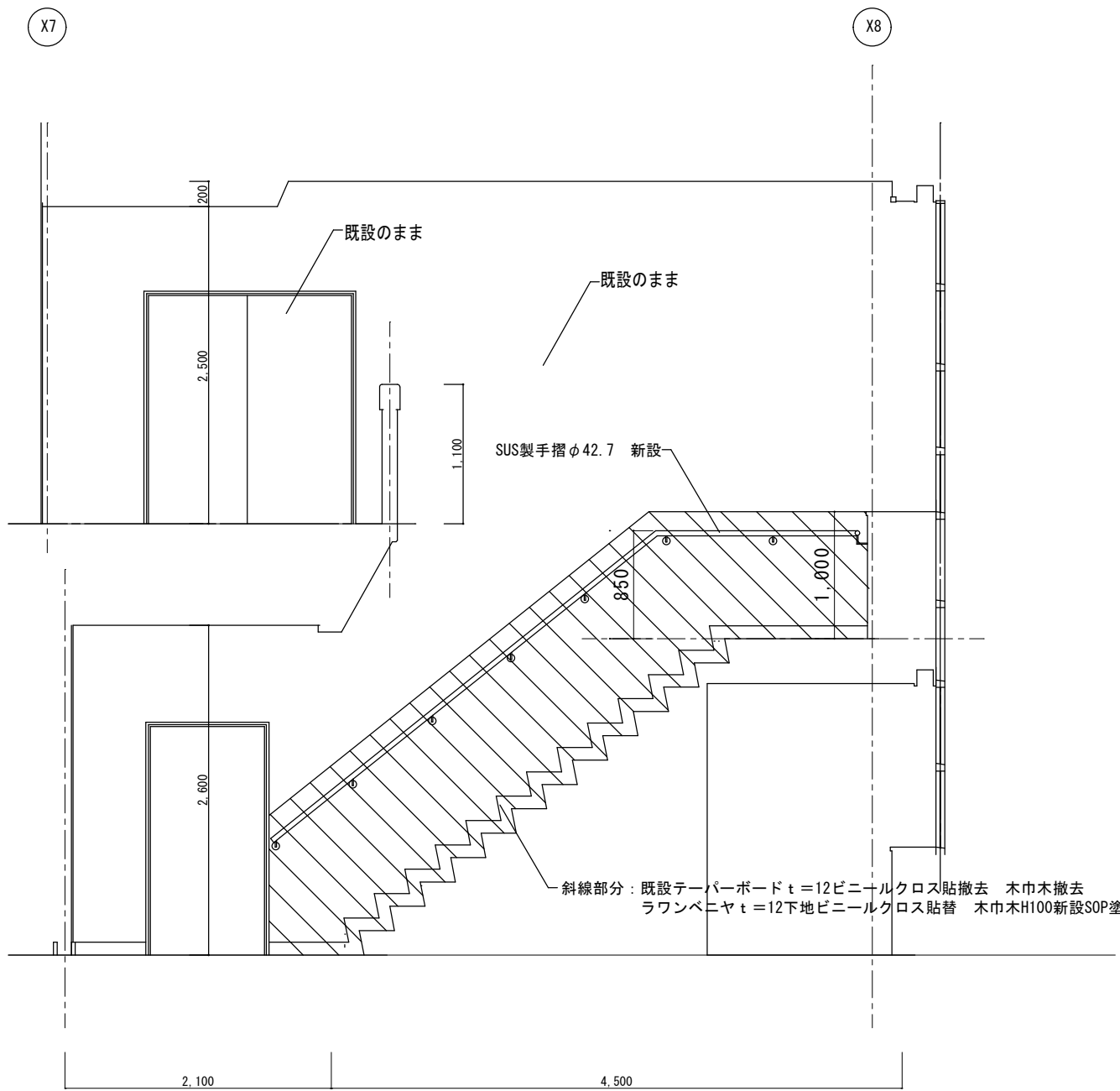
津市一志学校給食センター長寿化改修工事

改修後 2階天井伏図

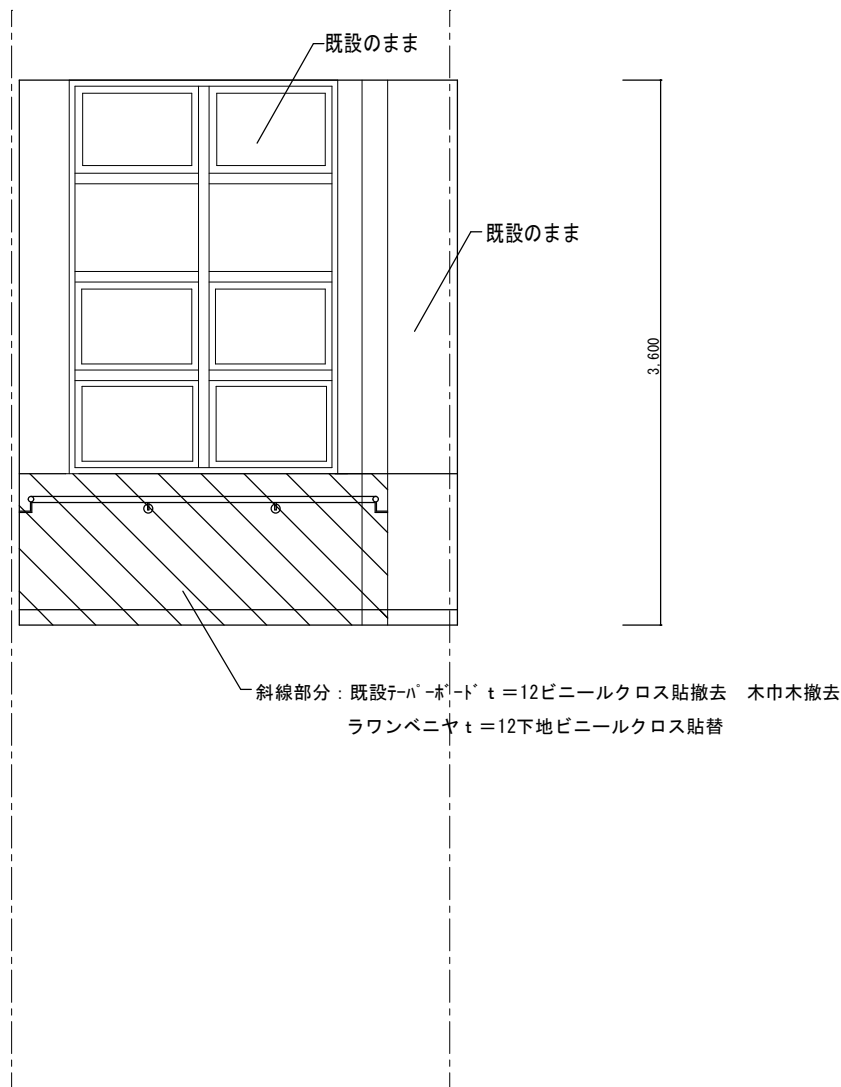
1/100

令和 年 月
A-21 (原図 A-2)
一級建築士第228153号 長岡 忠明

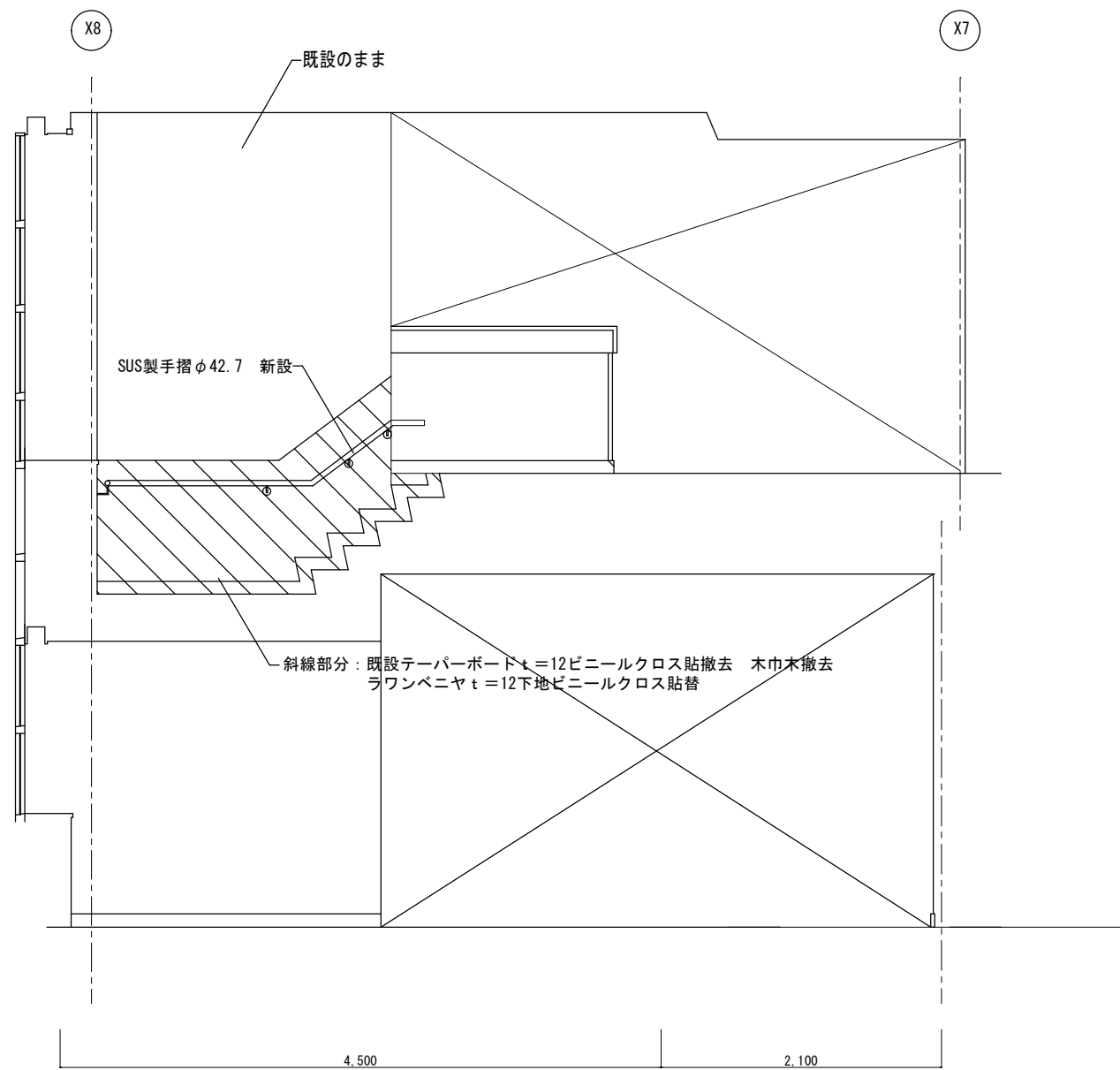




A

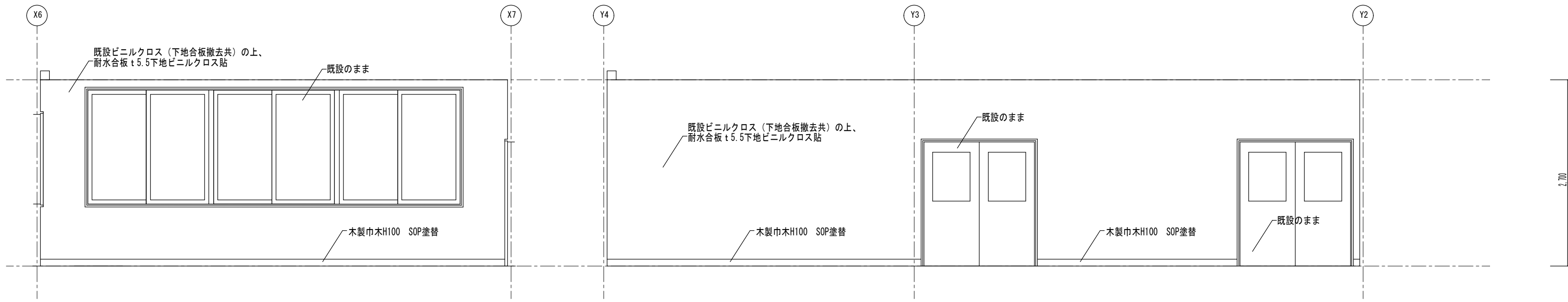


B



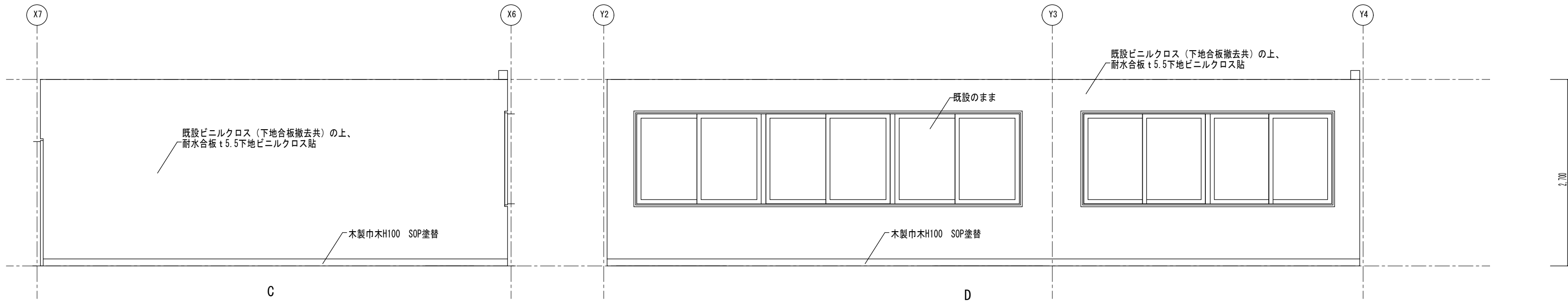
C

階段室



A

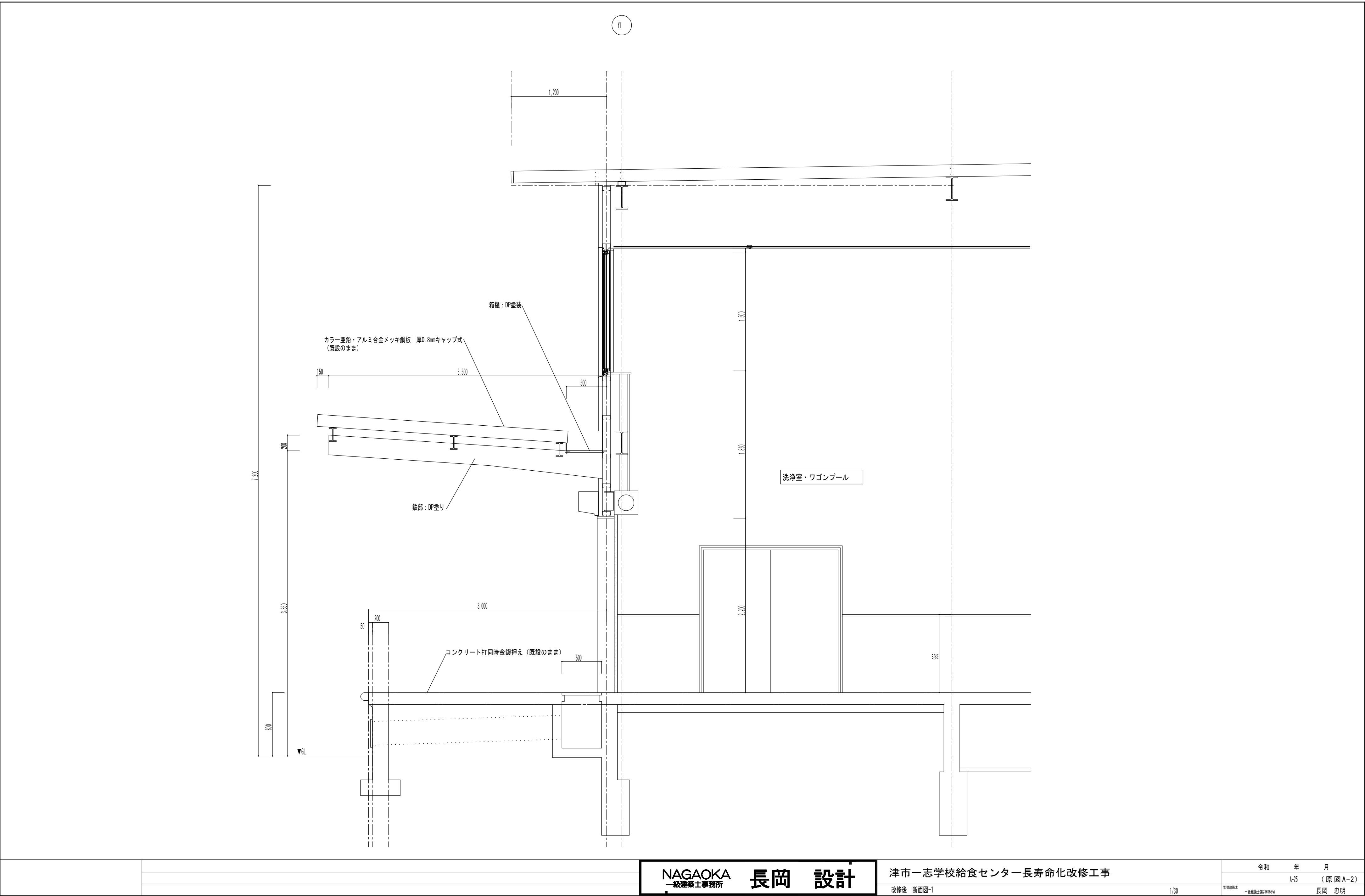
B

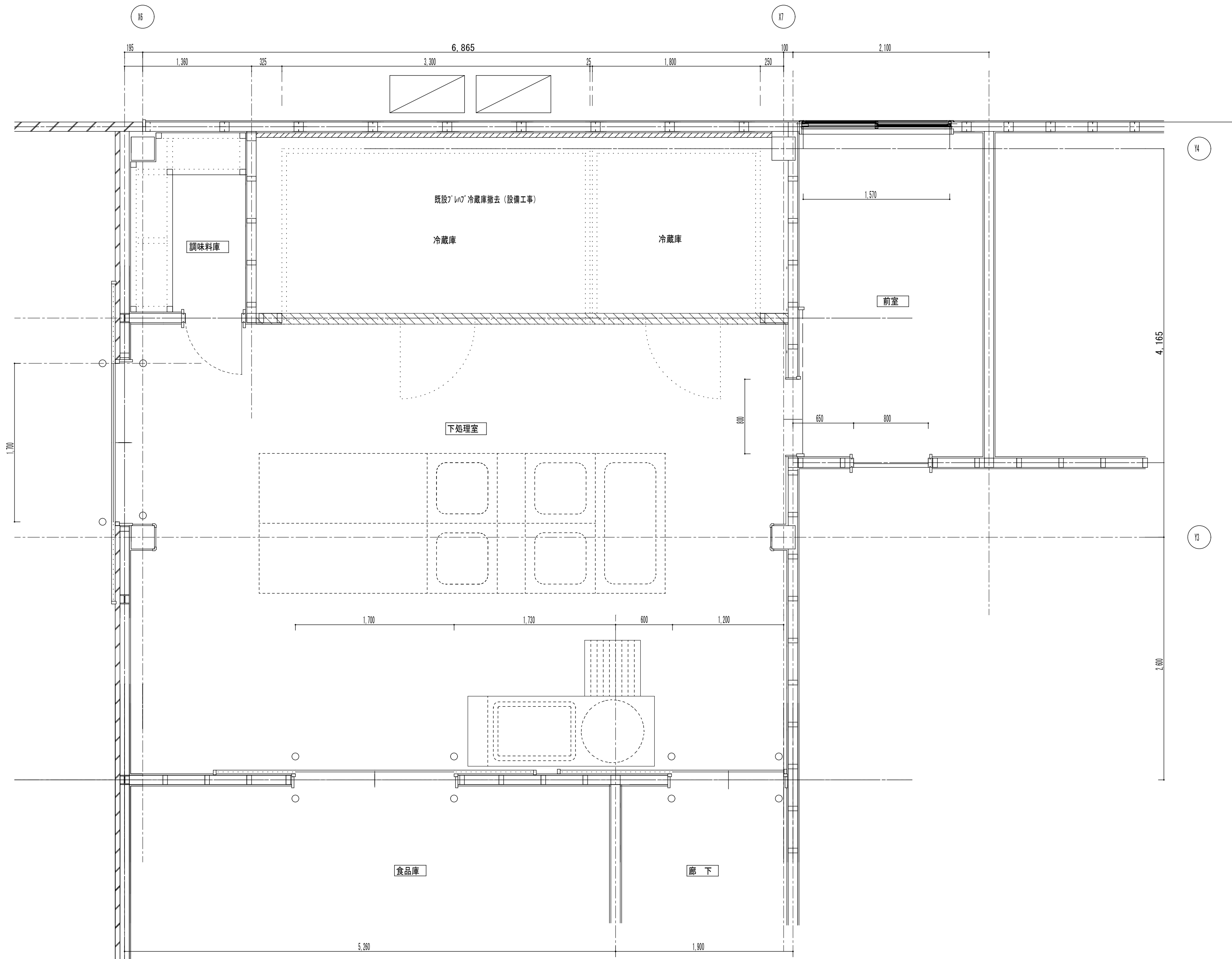


C

D

大会議室





斜線部分：撤去範囲を示す

NAGAOKA
一級建築士事務所

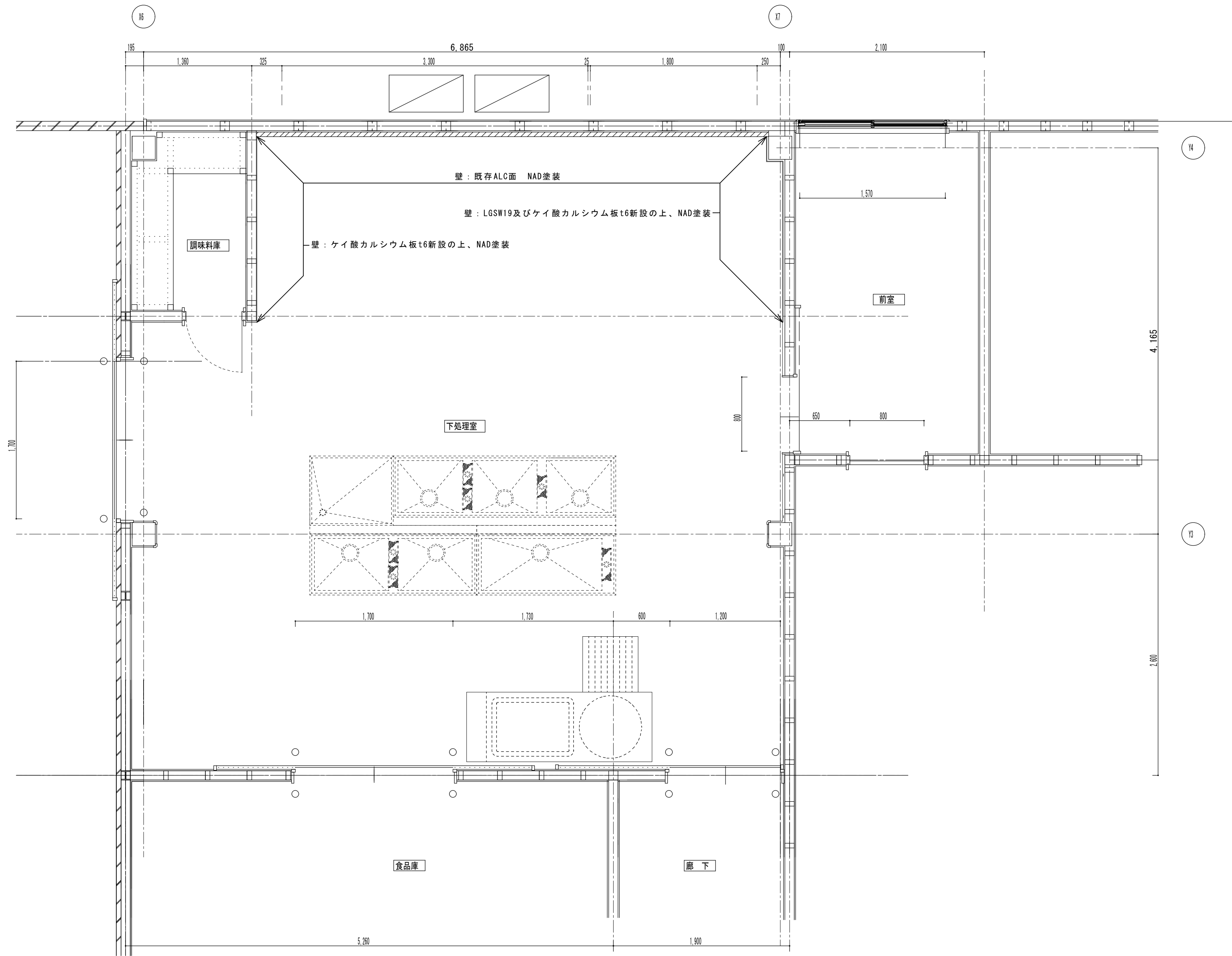
長岡 設計

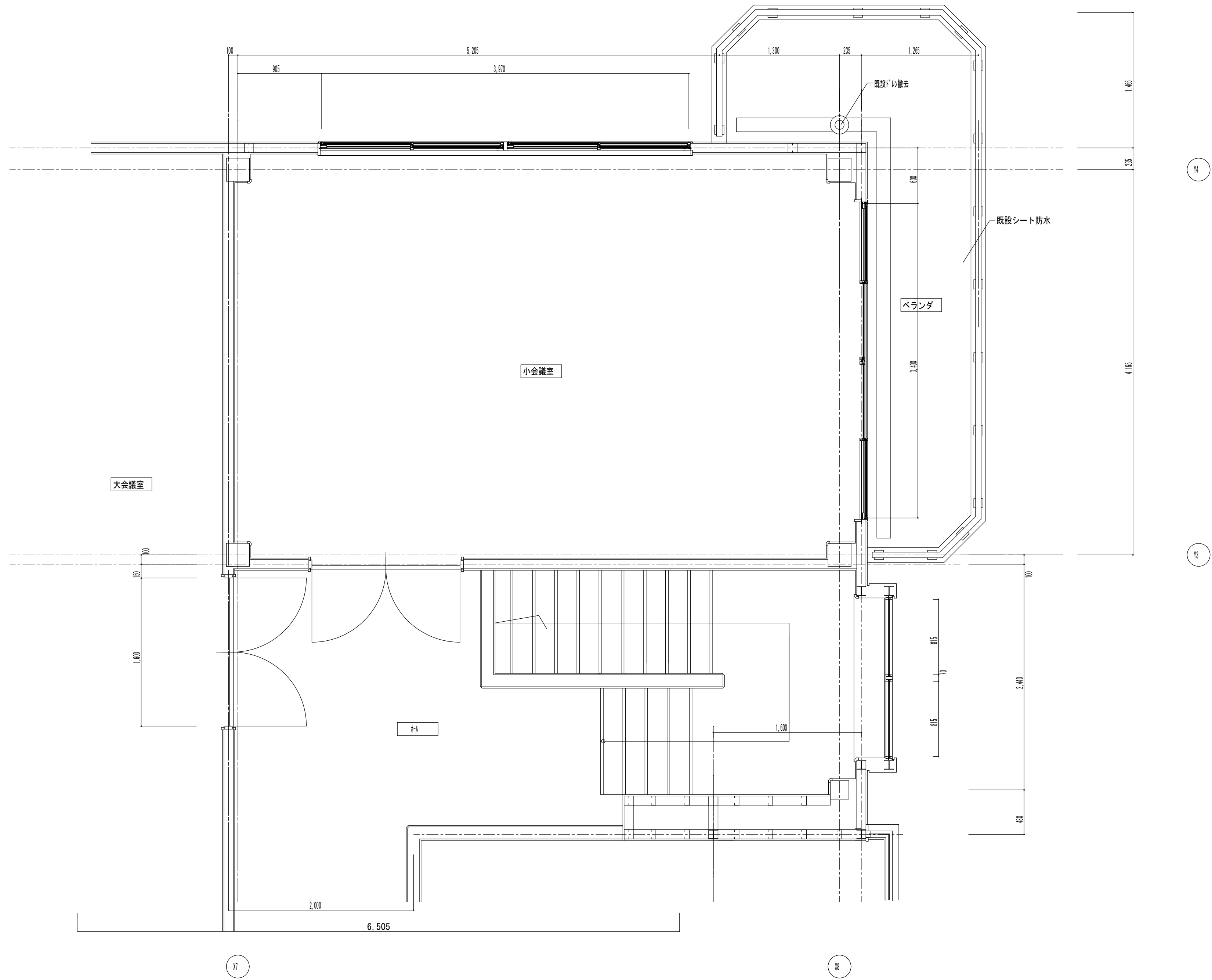
津市一志学校給食センター長寿命化改修工事

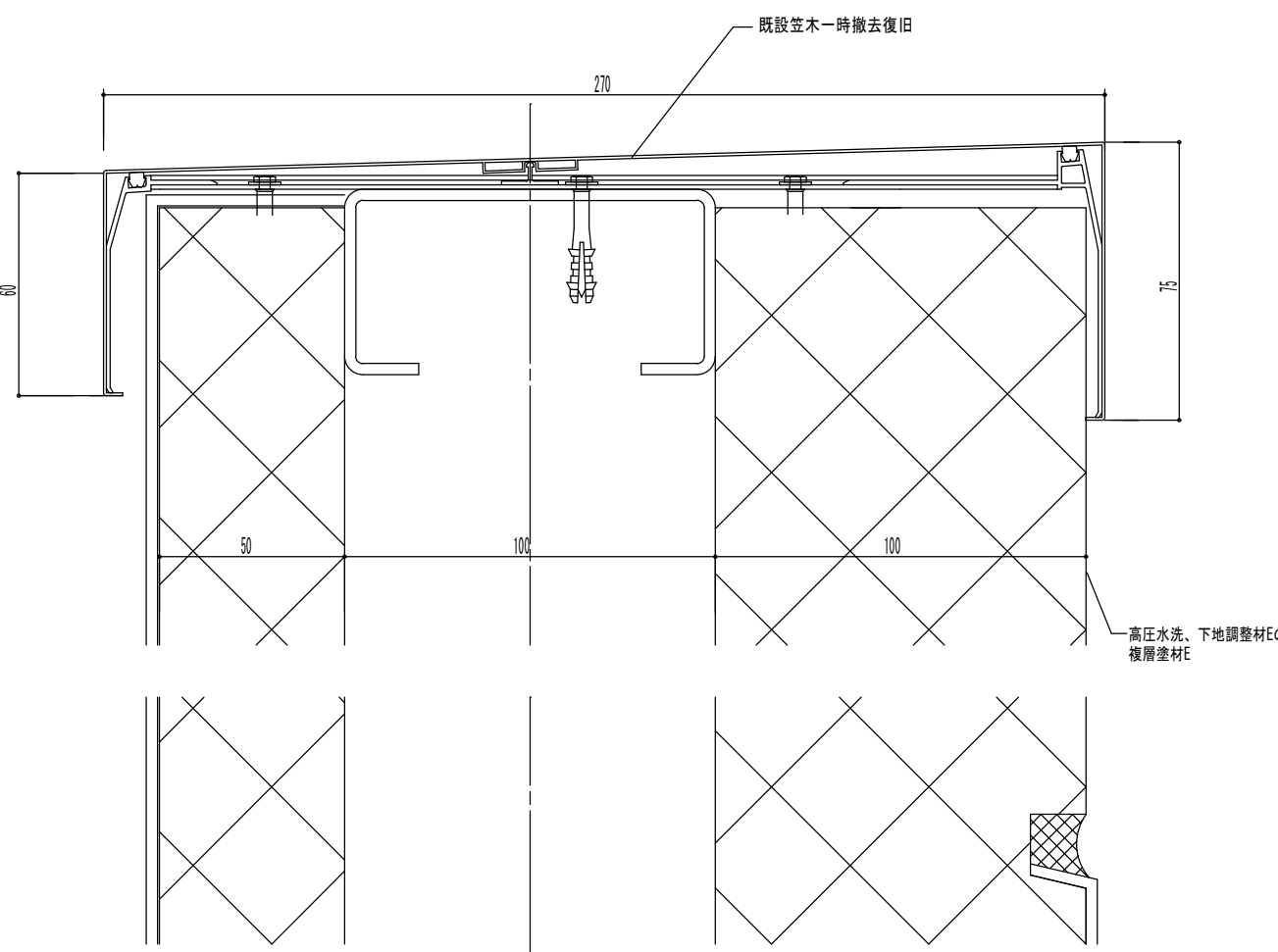
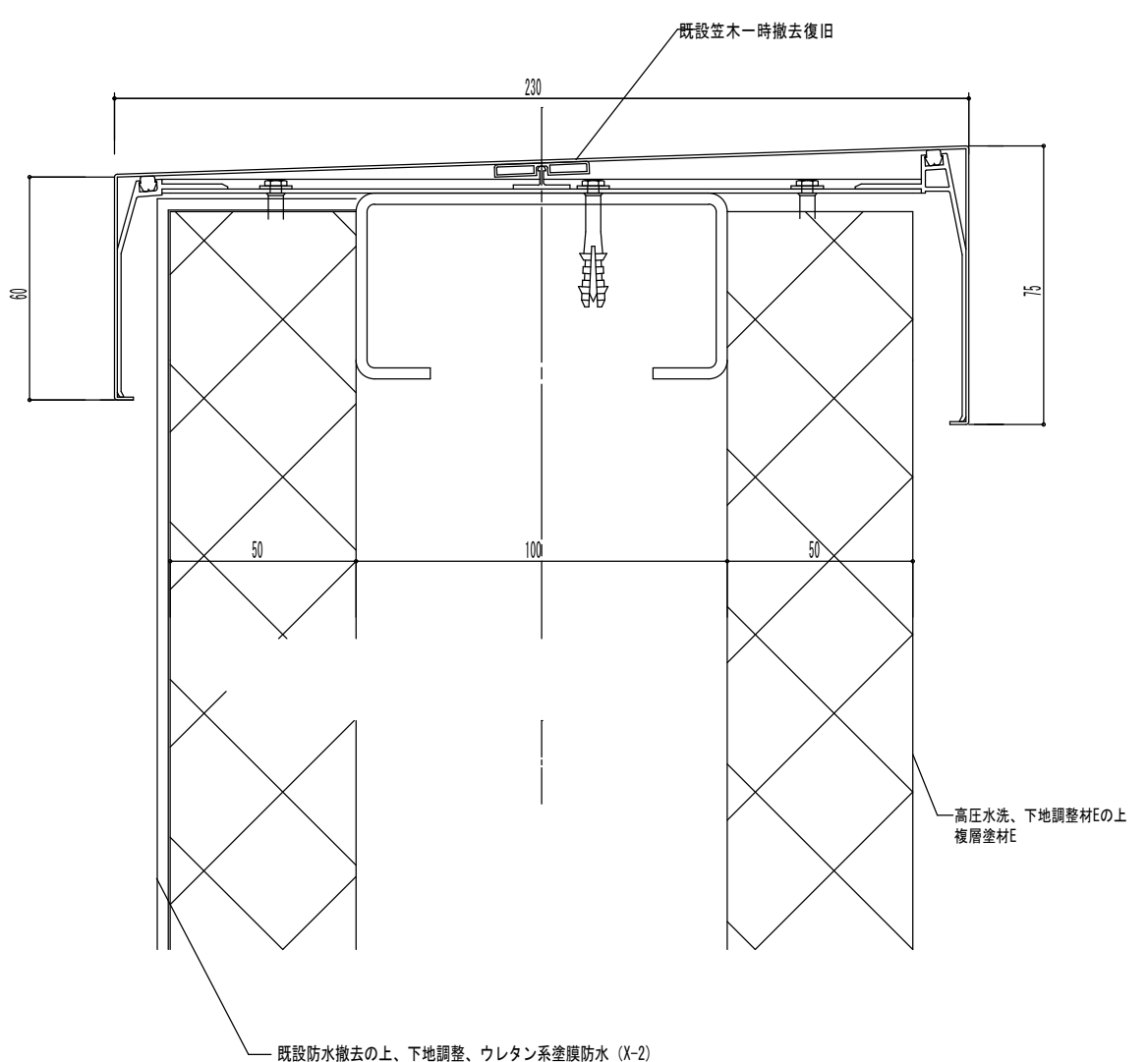
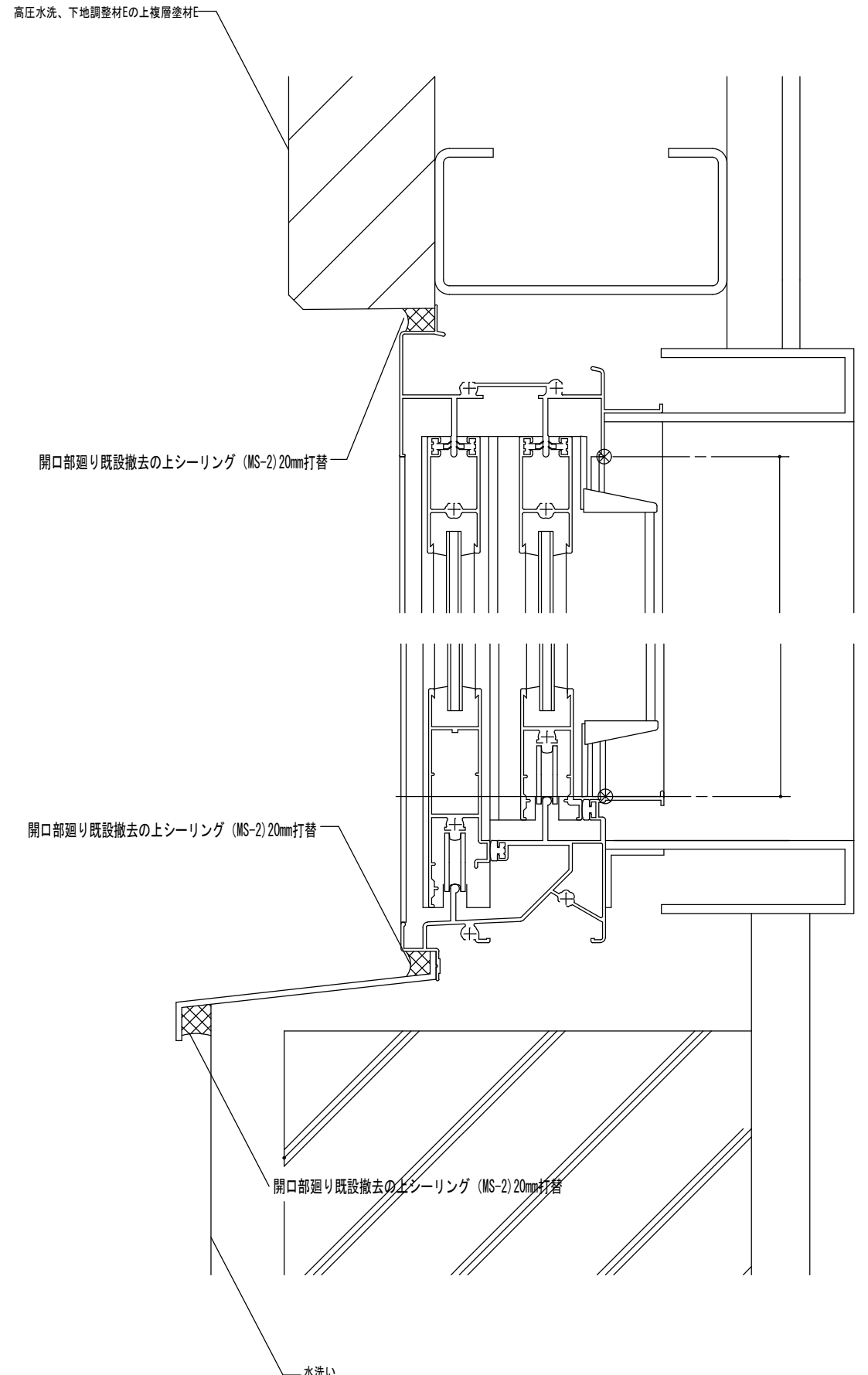
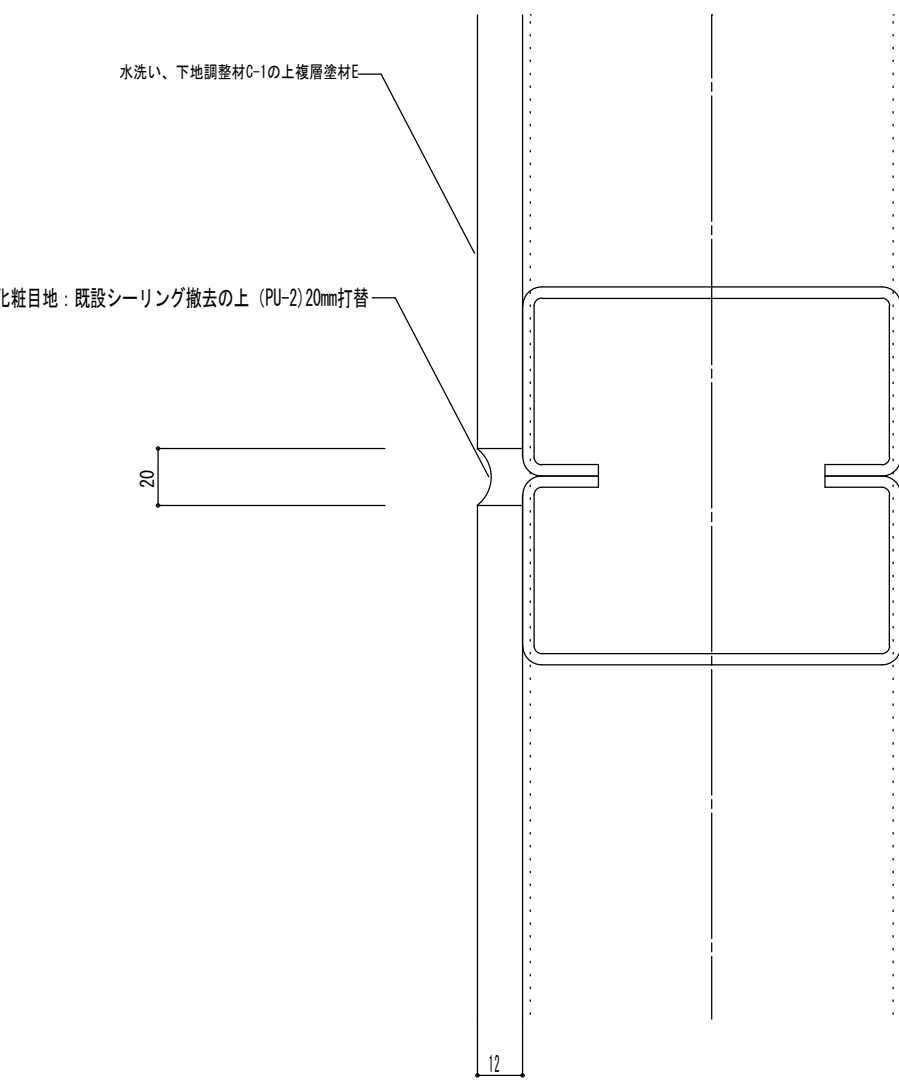
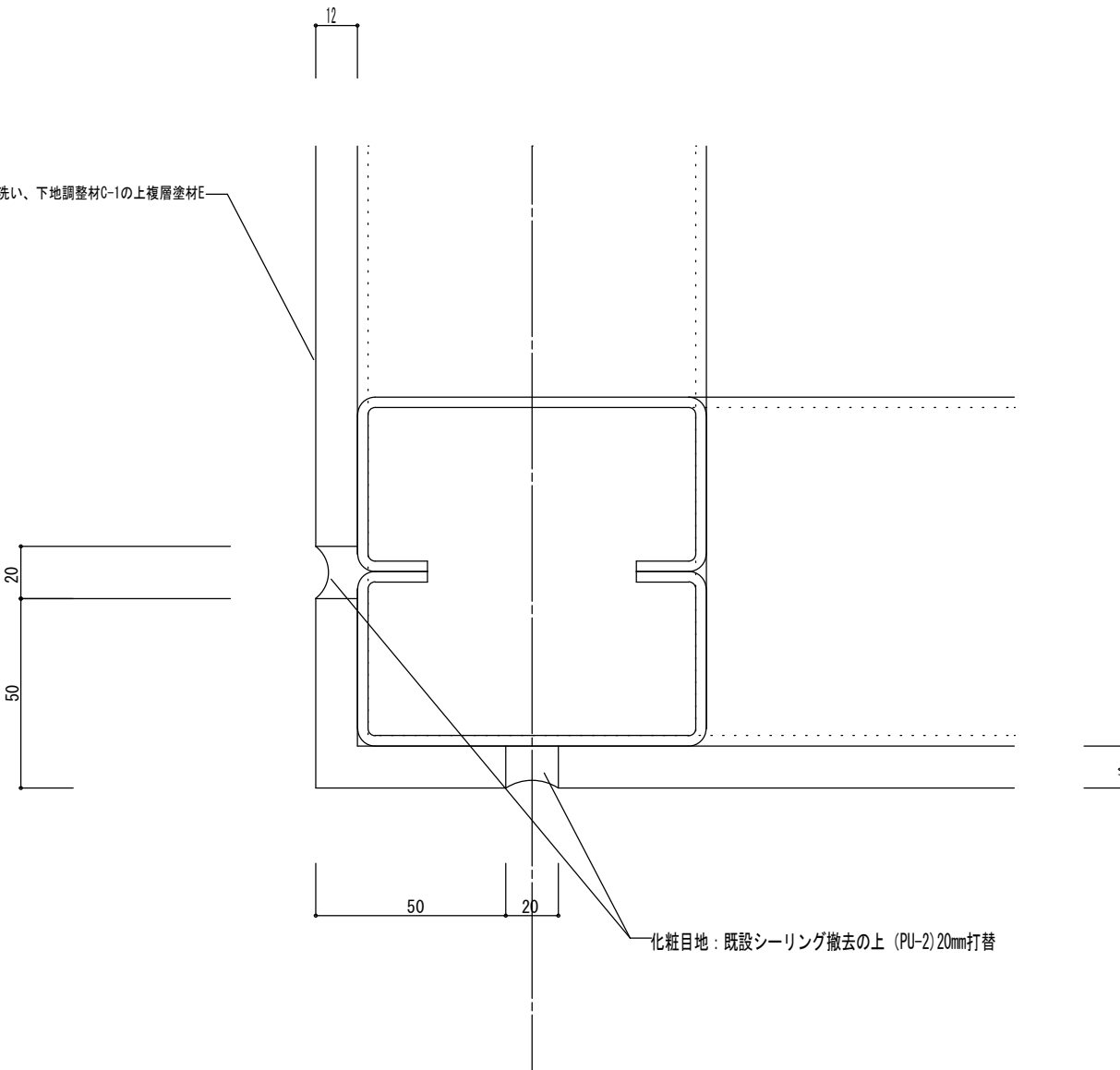
改修前 平面詳細図-1

1/30

令和	年	月
A-27		(原図 A-2)
登録建築士	一級建築士第228153号	長岡 忠明





<p>パラペットアルミ笠木（西面）詳細図</p> 	<p>パラペットアルミ笠木（東、南、北面）詳細図</p> 	<p>サッシ廻り詳細図</p> 									
<p>外壁仕上（ケイ酸カルシウム板 t=12）詳細図</p> 		<p>津市一志学校給食センター長寿命化改修工事</p> <p>改修後 部分詳細図</p>									
	<p>NAGAOKA 長岡 設計 一級建築士事務所</p>	<table><tr><td>令和</td><td>年</td><td>月</td></tr><tr><td>A-31</td><td></td><td>(原図 A-2)</td></tr><tr><td>専任建築士</td><td>一級建築士 第238153号</td><td>長岡 忠明</td></tr></table>	令和	年	月	A-31		(原図 A-2)	専任建築士	一級建築士 第238153号	長岡 忠明
令和	年	月									
A-31		(原図 A-2)									
専任建築士	一級建築士 第238153号	長岡 忠明									

凡例

○

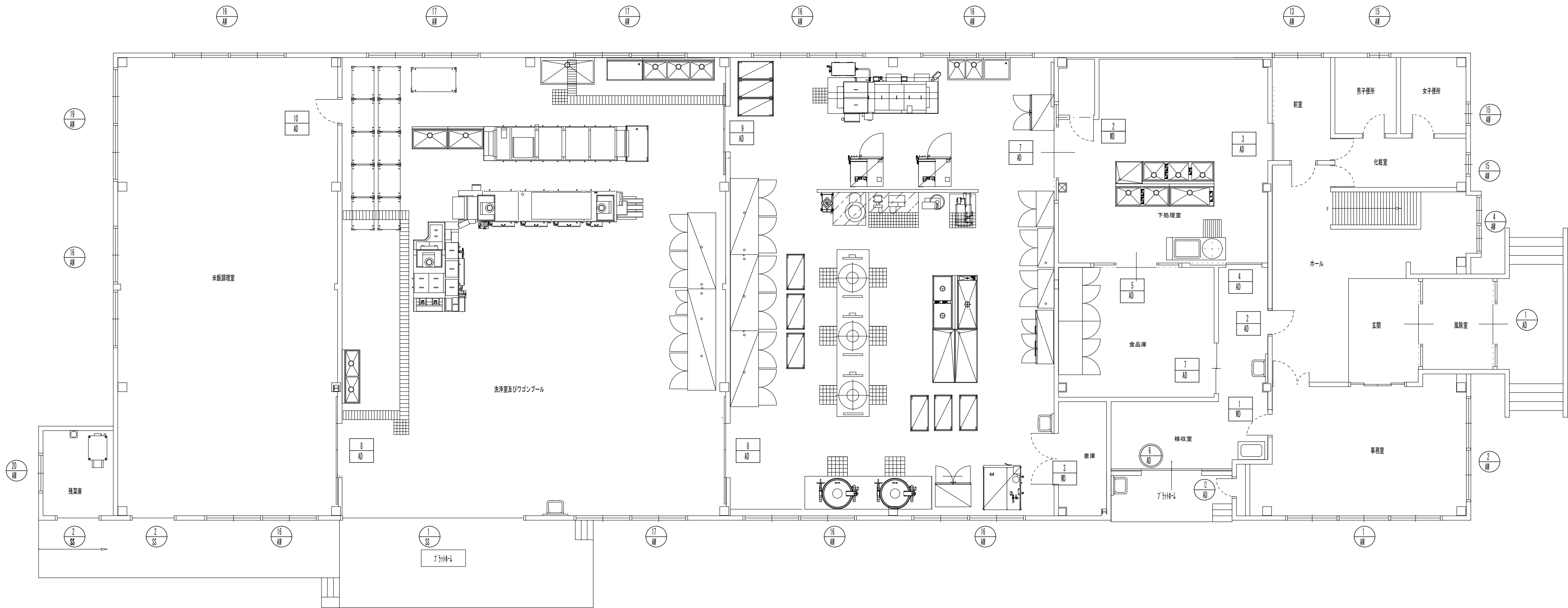
：周囲シーリング撤去・新設

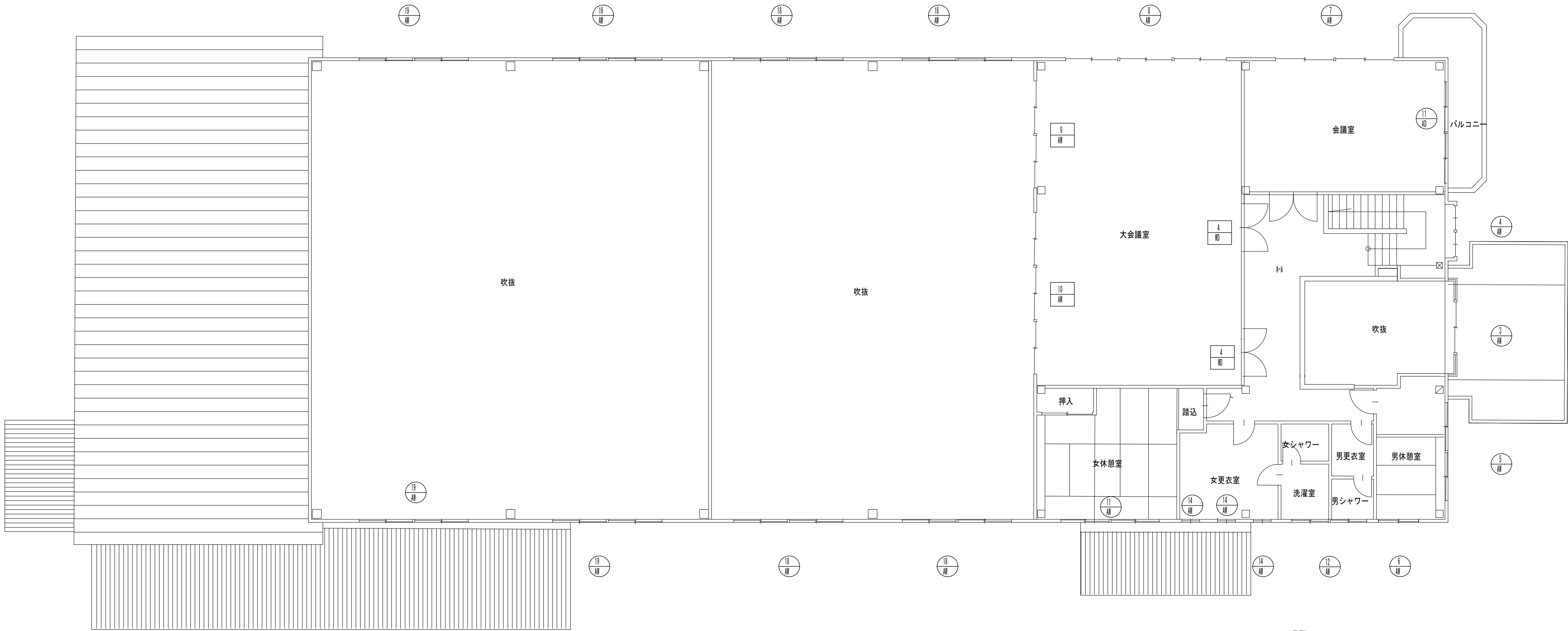
○

：改修建具

□

：既存のまま





凡例

○ : 周囲シーリング撤去・新設

□ : 既存のまま

建具表 S=1/100

室名・符号・箇所	<div><div>1</div><div>AD</div></div>	1	<div><div>2</div><div>AD</div></div>	既存のまま	1	<div><div>3</div><div>AD</div></div>	既存のまま	1	<div><div>4</div><div>AD</div></div>	既存のまま	1	<div><div>5</div><div>AD</div></div>	既存のまま	1	<div><div>6</div><div>AD</div></div>	1
姿図																
形式	袖付両開きドア		格子ドア		片引きハンガーフラッシュドア		片引きハンガーフラッシュドア		両引分けハンガーフラッシュドア		引分けドア（袖欄間付）		100			
仕上																
シーリング	枠廻りシーリング（3周）20mm										枠廻りシーリング（3周）20mm					
備考																
室名・符号・箇所	<div><div>7</div><div>AD</div></div>	既存のまま	1	<div><div>8</div><div>AD</div></div>	既存のまま	2	<div><div>9</div><div>AD</div></div>	既存のまま	1	<div><div>10</div><div>AD</div></div>	既存のまま	1	<div><div>11</div><div>AD</div></div>	1	<div><div>12</div><div>AD</div></div>	1
姿図																
形式	引き違いフラッシュドア		両引分けフラッシュドア		両引分けフラッシュドア		片開きフラッシュドア		2連引き違いガラス戸（欄間付）		片開きフラッシュ戸					
仕上	カラーアルミ															
シーリング									シーリング打替（4周）20mm		シーリング打替（4周）20mm					
備考																
室名・符号・箇所	<div><div>1</div><div>AM</div></div>	1	<div><div>2</div><div>AM</div></div>	1	<div><div>3</div><div>AM</div></div>	1	<div><div>4</div><div>AM</div></div>	1	<div><div>5</div><div>AM</div></div>	1	<div><div>6</div><div>AM</div></div>	1	<div><div>7</div><div>AM</div></div>	1	<div><div>8</div><div>AM</div></div>	1
姿図																
形式	3連引き違いガラス窓		2連引き違いガラス窓		ハメ殺し袖付引き違いガラス窓		内倒し及びFIXガラス窓		2連引き違いガラス窓		引き違いガラス窓					
仕上																
シーリング	シーリング打替（4周）20mm		シーリング打替（4周）20mm		シーリング打替（4周）20mm		シーリング打替（4周）20mm		シーリング打替（4周）20mm		シーリング打替（4周）20mm					
備考																

＊）枠廻りシーリングは特記なき限り20mmとする

建具表 S=1/100

室名・符号・箇所	7 AM	1	8 AM	1	9 AM	既存のまま		10 AM	既存のまま		1	11 AM	1	12 AM	1
姿図															
形式	2連引き違いガラス窓		3連引き違いガラス窓		2連引き違いガラス窓		3連引き違いガラス窓		2連引き違いガラス窓		2連引き違いガラス窓				
仕上															
シーリング	シーリング打替（4周）20mm		シーリング打替（4周）20mm						シーリング打替（4周）20mm		シーリング打替（4周）20mm				
備考															
室名・符号・箇所	13 AM	1	14 AM	1	15 AM	1	16 AM	6	17 AM	3	18 AM	4			
姿図															
形式	引き違いガラス窓		縦軸回転ガラス窓		縦軸回転ガラス窓		2連引き違いガラス窓(腰ガラリ付)		2連引き違いガラス窓(腰ガラリ付)		2連引き違いガラス窓				
仕上															
シーリング	シーリング打替（4周）20mm		シーリング打替（4周）20mm		シーリング打替（4周）20mm		シーリング打替（4周）20mm		シーリング打替（4周）20mm		シーリング打替（4周）20mm				
備考															
室名・符号・箇所	19 AM	4	20 AM	1											
姿図															
形式	2連引き違いガラス窓		引き違いガラス窓												
仕上															
シーリング	シーリング打替（4周）20mm		シーリング打替（4周）20mm												
備考															

*) 枠廻りシーリングは特記なき限り20mmとする

建具表 S=1/100

室名・符号・箇所	<div><div>1</div><div>SS</div></div>	1	<div><div>2</div><div>SS</div></div>	2	<div><div>1</div><div>NO</div></div>	既存のまま	1	<div><div>2</div><div>NO</div></div>	既存のまま	1	<div><div>3</div><div>NO</div></div>	既存のまま	1	<div><div>4</div><div>NO</div></div>	既存のまま	1
姿図																
形式	軽量シャッター		軽量シャッター		片開きフラッシュドア		片開きフラッシュドア		両開きフラッシュドア		両開きフラッシュドア					
仕上																
シーリング	枠廻りシーリング (3周) 20mm		枠廻りシーリング (3周) 20mm													
備考																
室名・符号・箇所																
姿図																
形式																
仕上																
シーリング																
備考																
室名・符号・箇所																
姿図																
形式																
仕上																
シーリング																
備考																

*) 枠廻りシーリングは特記なき限り20mmとする